

関西学院大学総合政策学部

2016年度 秋学期

日本語Ⅱ レポート集

大学生生活の希望

目次

1 クラス（担当：牲川 波都季）

アーチェリーのスキルを身につける	オウ シュウメイ 王 秀梅	2
鍛錬と奉獻	オウ スイ 王 帥	6
ピクシー事業の基盤作り	ヨウ ホジン 高 豪振	11
自分の日本語でコミュニケーションへ —日本語勉強方法の転換	チョウ ケイ 張 敬	16
環境保護—故郷の環境改善へ	チョウ テツキン 張 テツキン	21
私と合気道の一年間	チョウ ハクガン 趙 伯岩	27
自由に大学四年間を過ごす	ヨウ シンビン 楊 晨敏	30
理想を向かって—建築からの大学生活	リク シンコン 陸 シンコン	33
私の夢に繋がる階段 —ラジオキャスターになるための坂は決して簡単ではない	ロマーノ・ミルコ	36

2 クラス（担当：横野 さゆる）

読書で大学生活を過ごす	ウ 干	シケン 子軒	44
素晴らしい空港の改善へ	オウ 王	カイゼン 淮然	47
私が4年間の大学でやりたい事	グオン 権	ヒョンチョル 炫喆	52
やりたいこと	ゴ 呉	セイコウ 正好	55
関学でやりたいこと	シャオ 邵	イーファン 一帆	58
自分を鍛え、世界人材の道へ	ジョウカン 上官	キンキン 欣欣	61
大学で英会話力を身に付けよう	スウ スウ	ウテイ ウテイ	64
建築の道へ	ブン 文	ソウテイ 双定	67
コミュニケーション能力を培う	ヨウ 雍	リンキ 林希	73
充実大学生活のため	リ 李	ジョウウ 拯宇	79

1 クラス

担当 牲川 波都季

アーチェリーのスキルを身につける

王秀梅

1.アーチェリーとは

私今一番やりたいことはアーチェリーをちゃんと練習することである。

アーチェリーというのは、弓に矢を使って、何十メートルのところに立って、矢がまとを狙って得点を競うというスポーツである。まとの中心ほど点数が高く、中心から外れれば点数が低くなる。アーチェリーは森や山などで行われた室外の「フィールドアーチェリー」と室内で行われた「インドアアーチェリー」など様々な競技の形があるが、関学のアーチェリー部はテニスコートの隣、自然に囲まれているグラウンドにある。

2.始める前の状態

大学に入ってからはずっと勉強が一番大事だと思って、ちゃんと単位を落とせず、無事に卒業できるように、勉強向きにしていた。勉強向きと言うか、実はただ自分が本当に何かをやりたいのがわからないから、とりあえずちゃんと勉強しようと決めた。

考え方が変わったのは、基礎ゼミの授業で、自己紹介された時だった。大体はお名前と卒業した高校と自分の趣味だった。ゼミクラスの中で誰でも中学校や高校から部活に入って、ラグビーや野球やバスケットボールなど、せめて一つはできるということで、私の場合は何でもできなかった。がっかりした末、一番得意なのは中華料理ですって言ってしまった。高校の体育の授業が全部ほかの授業にチェンジされてしまって、スポーツの中に、ジョギング以外に何もできなかった。授業終わったら、自分も何かを趣味としてやろうかと考えた。

3.アーチェリーとの出会い

アーチェリーに出会ったのは、大学の入学式の時のことだった。大学の入学式に、先輩たちから色々なサークルや部活のパンフレットを強引的にもらってしまった。そして、私も何かサークルに入って、日本の大学ならではの経歴を作ろうかと思っていた。一番気になるのは弓道部の宣伝のポスターだった。ある女の子が伝統的な弓道部の道服を着て、弓を引いている姿、今も頭の中に映っている。それが面白そうだなあと思った。調べてみると、弓道部は上ヶ原キャンパスしかないのだから、上ヶ原キャンパスと三田キャンパスに通うのが大変すぎだと思って、諦めることにした。

アーチェリー部に入るのを決めたのは、ある日、チャペルが終わって帰る時に、教室の外の掲示板に貼っているポスターを見て、三田キャンパスにも射撃競技ができる部活があって、洋弓部という部活だった。嬉しくて、すぐ担当のリーダーの先輩に連絡して、見学に行ってきた。

4.アーチェリーの魅力

どうしてこんなにアーチェリーが好きなのか私もはっきり言えないが、昔パソコンゲームをしていた時から、弓を使う獵師というキャラクターだった。本当の弓を見たら、ただ面白そうと思って、やり始めた。やればやるほど、楽しい運動だと思った。そして、学業とバイト忙しい私にとっては、それもストレス解消のひとつの方法であった。真っ青の空の下、きれいな緑に囲まれている三田アーチェリー場で、一人で静かに、何も考えずに的の中心を狙って、矢を射つってという感じを一度味わうと、その魅力が忘れられない。そして、的に当たられるために色々な努力、的に真ん中に当たった瞬間の嬉しさ、一生でも趣味として続けたい。

5.部活の生活

アーチェリーを始めたもう4ヶ月になった。毎週5コマの練習があって、プラス土曜日に上ヶ原キャンパスで全関学のアーチェリー部の学生たちと一緒に練習することだ。始め時の練習は標準的な弓を握る方や、正しい立つ姿勢や、どんな時にどれの筋肉を使うとかを先輩から教えてくれる。姿勢が間違ったら、どんな工夫して練習でも、点数が上がれない。その後はゴムを使って練習していたが、どんどん弓の基礎知識わかってきて、学校の練習弓を使って練習する。もっとうまくなって、やっと自分の弓を手に入れた。今のところは30mから射っている。

始めて正練に行く日は暑くて、帰ってきたら熱中症になってしまった。そして、普段全然運動しないから、筋肉トレーニングで、筋肉が痛くてやばかった。しかし、練習すればするほど、暑さに強くなってきて、筋肉もこりこりした。

夏休みの間に、帰国してなくて、部活で活躍していた。毎日ただ3時間の練習だったが、暑さと体力不足で大変だった。しかし、上回生の先輩たちや校外からも専門家が指導に来てくれて、自分もちゃんとアーチェリーについての本と映像を見て、点数アップすることができて、とても充実な夏休みだった。

6.自分に与えたメリット

アーチェリーをするためには、相当な集中力が必要だ。これも私のデメリットである。あまり集中できなくて、よくぼんやりしている。アーチェリーの練習を通じて、この点をできるだけ直したいと思っている。

そして、日本人の友達もたくさんできた。毎日の交流を通して、日本語も昔よりもっとうまく話せるようになったと感じた。もう一つのメリットは、先輩から色々なテストの過去問がもらえた。こう考えたら、学業にも有利な面がある。

キャリアデザインの授業で、「将来就職の面接を受けるとき、大学で一番力を入れたことは何ですかと聞かれたらどう答える」とよく先生に聞かれた。部活をまじめに参加して、自

分の成長や自分の変化などちゃんと整理して、将来自分にアピールできるものになるかもしれない。

7.本のレビュー

夏休みの間に山本 博さん(日本体育大学教授)の『ゼロから始めるアーチェリー』という本を読んで、色々アーチェリーのコツが手に入った。アーチェリーの基本原則は「自分に適した弓具を用いて、とても単純な技術を、力強い体力によって安定させ、強い精神力によって期待と不安をコントロールして、厳密な体調管理によって常に万全を期す」と筆者が言った。アーチェリーのやり方を見たら、「サッカーやバレーボールのような動的なスポーツと異なり、動きの少ない静的スポーツである、比較的運動が苦手な人でも十分に楽しむことができる」と書いてある。しかし私の考えは、ただ弓を引いて、矢を発射して、動きも少なく、動作が簡単そうに見えるが、うまくなりたかったら、とても気づけない細かいところがあるとコントロールしないとイケない競技である。基本の動作と弓具のメンテナンスから、点数をアップすることができる。例えば、弓を握るとき、手で握るではなく、親指と人さし指の間で押すだけで良い、矢をまっすぐ飛ばすために、引く手がどこまで弦を引いたらいい、水平かどうか、これらの小さいところから、射型の直すにとても役に立った。

私の一番弱いところは、弦を放すときに、弓を握っている手が震えてしまうので、矢をまっすぐ飛ばずに、右や左に行ってしまう。弓のサイトをどう調節しても、あまり効果がなかった。先輩たちも私の射形を見てくれたが、また真ん中に飛ばられない。本を読んだら、弓を握っている腕の肘を回らないと、固定していないので、弦を放すとき手が震えてしまうって言われた。そこをちゃんと意識したら、手が震える癖がなくなった。その後、先輩たちの指導とこの本を両方混じって頭に入れたおかげで、関西学生アーチェリー新人試合に10位に入った。

8.最後に

アーチェリー部に入って半年くらいで、自分の一番感じた成長はチームワークの大切さをもっと分かった。アーチェリーは個人競技だけど、試合の時チームからの応援や自分の射型(アーチェリーをやる時の姿勢)を見て、言ってくれる意見が私にとって宝物である。

そして、ある日、体調不良で部活を休んでしまって、同級生に休みのことを伝えたが、先輩に伝えてなかった。なぜ先輩に伝えてなかったと言ったら、新人ミーティングの時、私まだ入部してなかった。だから、ただみんなのまねをして、休みはライングループで報告した。実は、先輩の個人ラインにも報告しないとイケないのだ

なので、部活の規則によって、女子部全員の罰走(部活の規則を違反したら、全員に7キロ走ること)になってしまった。自分のせいでみんなの罰則になってしまったのは嫌だが、先輩から一緒に走るのはみんなが同じ部活の部員だから、一緒に学んで、一緒に成長してい

くから、自分のせいだという悲しく不安な気持ちが大切って言ってくれた。とても感動した。

アーチェリーの競技はやったら本当に予想の通り面白いと思って、続けていきたい。たぶん、人によって、好みが違うけど、アーチェリーは私なりの趣味である。今まではプロになるのは考えてなくて、ずっと今の調子で頑張っていきたいと思う。未来はただ趣味としてやるか、競技に参加するまでは、ある実力があったら、ちゃんと考えたい。

参考文献：

山本 博 『ゼロから始めるアーチェリー』実業之日本社

感想

大学の第一学期の日本語授業を通じて、やはり日本語学校と全く違う授業方法ということを感じました。まずは、授業で日本語の文法や単語を覚えるじゃなくて、自分の言いたいことをきちんと表現できるという授業の目的だと思いました。やりたいことをテーマとして、何回も書いたり、直したりしてきました。私は始めの時はやりたいことがわからなかったが、みんなのコメントなどをもらってきて、どんどんいい文章になりました。意見としては、先生に対してちょっと大変かもしれませんが、私たちの文章の間違いやもっといい表現方法を直してくれたら、日本語能力ももっと上がるかなと思いました。これからもよろしくお願いします。

鍛錬と奉獻

王帥

大学入ってから今まで

気がついたところで、もうすぐ一年が終わるどことだ。大学生活に対しての新鮮感もなくしてしまっていて、毎日同じような生活を繰り返す日々となっている。最初はサークルを体験したり、ボランティア活動に参加したり、今まで試したことがなく、僕にとって新鮮なことを体験しようと思ったが。結局、迷ったあげく、何にも参加しなかった。「なぜだろう」と自ら反省する。

きちんと考えれば、自分にとって「かっこういい、偉い」のことなのに、自分がどうしてもやりたいと言っても、動きが全くなかった。

ちょっと前の話だが、2014年の時、一回関学の試験を受けたが。残念だった。悔しいことは言うまでもなかった。自分がそこまでが限界だったと落ち込むこともあったが、やはり自分は初めて自らの学習姿勢を考え直すと思って、「自分はなぜ無理なのか」がわかるために。一年の浪人生活を味わって、今見たとおり、ここに立っている。

結局、受け入れてくれて、しかも頑張る理由を与えてくれて、「感謝しなくちゃいけない」という気持ちが生まれた。

そして、そこまで頑張ったことがあるからこそ、自分がどんな人間かが少しわかるようになった気がする。「やっぱ自分が勉強の逸材ではないわ」とわかった。ならば、せめて卒業まで何かをして、自分が卒業したとき「大学四年間ただ紙一枚しか貰えなかった」と後悔しないためだ。

これで、自分は大学に何かできることがあるのか、いつの間にようやく見つけた。

やろうと思うこと

前のある日、前の学校の先生と話し合う時「もし大学は君を行かせるなら、君は何を貢献できるのか、学校にとってなんのメリットがあるのか」と聞かれて、ぐっとしました。長く沈黙した最後、「ちゃんと学費を払って、ちゃんと学校に行って、法律を守って大学の名誉に損することをしない」としか言い返せなかった。

関西学院大学は外国人宣教師が設置して、昔から留学生を受け入れる伝統がある、日本が国際化に進むに伴って。ますます留学生の数が増えていた。とはいえ、これだけでははるかに足りないと、僕がそう感じている。

他の学校と比べてみよう。

2016年度	学生数	留学生数	留学生割合	日本人志願者数	留学生志願者数	留学生割合順位	留学生数順位
上智大学	13,435	1019	7.5847%			1	2
早稲田大	52,078	2145	4.1188%	103,494	1203	2	1
明治大学	32,890	981	2.9827%	102,729	823	3	3
立命館大	32,301	817	2.5293%	87386	718	4	4
青山学院	18,835	456	2.4210%		281	5	10
立教大学	19,446	431	2.2164%			6	11
中央大学	30,691	635	2.0690%			7	5
関西学院	23,498	479	2.0385%	36632	315	8	9
関西大学	28,568	490	1.7152%	72815	235	9	7
同志社大	29,224	484	1.6562%	49904	449	10	8
法政大学	35,112	500	1.4240%			11	6

表1 大学別学生数と留学生数

各大学HPより、正規学部留学生のみ
 関西大学では公表したデータないので、例年の留学試験合格者数より推算

表を見ると、結構下位であることがすぐわかる。少子高齢化を進むにつれて、大学全入時代になっている。学生から見ると、選ぶ余地も増えていた、どうすれば日本人にとっては魅力的な大学であろうかということは、大学側が考えなければならない。

グローバルかになっている現在、国際的な大学であることイゴール魅力的であろうかと推測できる。

そして自らの視点から考え、留学生数が増えることは、自分にとって全く悪いことではなく、良いかつ素晴らしいこと。

「自分が全力で、留学生を受け入れることに力になりたいのだ」ということせめて大学四年間続けてやりたいことだろうと、決意した。

そこで、どうすれば自分の大学のことをみんなに伝えるようになるだろうか、どうすれば説得できるようになるだろうか、私はまだ鍛えなければならない。

先生と話し合っ、少し明らかにした。大学全体としては動きにくく、許可を得ることも困難であり、かえって学部は拠点として動けば、先生もサポートくれるし、動きをより簡単なので、まずは学部のことを受験生たちに伝え安いだろう。

もちろんいくら「大学に奉献する」というスローガンを言っても、決してあれだけが目的と言えない。

僕は将来マスメディア関係の仕事をしようと思っている、マスメディアであるなら、コミュニケーション能力は欠かせない、こんな活動を通して、自分のプレゼンテーション能力、多くの人々の前で冷静かつ上手に話すことなどにも

鍛えるようになる。僕にとっては良いトレーニングになる。

そして先生と話し合っ、「宣伝するなら自分が良い大学生活、良い成績が必要である」と

言われた、これで大学生活がもっと充実になるよう、良い成績を取るために頑張っ勉強するよう、ふさわしいきっかけになることも考えている。

最近数カ月でやったこと

前に言ったように、留学生進学説明会、インターネットを通じて、多くの学生さんに自分の大学生活と大学のことを伝えた、受験生すると決めた学生もいる、受験生に対してアドバイスなども手伝っあげた。そもそも忙しい僕にとっては猫の手も借りたいぐらいだった。

結果として、12名受験者に多少なアドバイスをあげ、その内7名がそれぞれの学部合格した。

しかし残念ながら、前期の入試、一番力を入れている二人総合政策学部を受験する学生が、残念でした。成績も良いし、意欲も高いなのに、なぜなのかは私にとって、今でも謎だった。

そして、進学説明会に参加するとき、一つ興味深いことが気づいた、大学のことにっいて、色々聞いてくれたが、「ここはXXX大学に比べないものだろう」「XXX大学がもっといいでしょう」「そんなに自分の国では有名な大学でないから、話を聞くだけで、受験するつもりがないよ」とか、このような空気を読まない発言もあった、もちろん実に彼らは自分が大学に入る意義がわからないはずだが。それはきっかけで、空気を読むことについて本を読んだ。日本人を含め、現代社会での若者たちが、空気を読む能力が失いつつある。筆者は、空気を読む能力が大事と言う一方で、その能力が生まれつきの能力と主張している、私は賛成せず、さらにこんな活動を通して、自分の「空気を読む能力が伸びた」と証明したいと思っている。本について、文章の最後に載せる。

何が得たかというと

私も時々やっていることを考え、自分を問う。「こんなことをすれば何か意義があるのか」。今でもその答えを探しているが、完全に知るためには、まだ時間がかかるだろう。しかしいま確信していることは、こういうことを続け、続けば、必ず何かを果たす。

せめて本気でやりたい子たちは、その「やりたいことは、やりたいところで、頑張っっていく」こと。人生変えるなんっって偉そうなことが言えないが、もし彼らの夢は、僕の協力で、少しでも近づいたら、それでいいじゃないかと。

そして今まで、関西学院大学神戸三田キャンパスでは、全ての留学生が一つになったことがないらしい。学年ごと、バラバラにしている。違う学年の人々は、顔さえ知らない場合もあるかもしれない。もしできるなら、僕がやっていることを通して、自分がブリッジになり、他の学年、他の学部の留学生たちと繋がり、さらに絆が作れるなら、きっと留学生たちはさらに団結になるだろう。将来にも、それぞれソーシャルキャピタルになるかもしれない。これはいかにとんでもないことだろう。

そしてほかの人に協力だけではなく、僕もそういうことを通じて、自分の能力が上がると思っている。今はまだ実感がないが、一年後、三年後、必ず大きく成長していくと、僕が信じている。これこそ、僕に支えてくれる力である。

これからのこと

後期の総合政策学部留学生入学試験、まだ二人（年末までまだ増えるかもしれない）に

アドバイスをあげる、みんないい子で、優秀な学生だから。僕ができることをやった以上、みんな来られるように祈ることしかできない。

私は留学生の分際で、留学生の立場から考えることができるのは日本の先生より考えやすいことは僕の有利面である。もちろんあくまでも理想的で、実際はどのような困難、阻害があるのかはわからない。ただ、「僕ができる」と信じていって、これからも行こうと僕はそう思っている。

そして、必ず、三田キャンパスの留学生たちが、もっと団結になると力を入れるつもりだ。

ブックレビュー

山岸俊男編『日本の「安心」はなぜ、消えたのか——社会心理学から見た現代日本の問題点』集英社

日本、特に現代日本社会では、集団主義社会だと呼ぶ場合がたまにはある、このような集団主義社会での生活するためには、「空気を読む能力」が大事だと考えることがよくある。

しかし残念ながら、現在日本社会の中では、「若者が空気を読む能力がどんどん下がっている」という考え方が広がっていて、若者一体どうされたのでしょうか。

なぜ日本人はそこまで「空気を」読むことをこだわっているか、なぜ若者が空気を読む能力がどんどんなくなったかを分析する。

まずは必要性としては「集団主義社会では人間関係を読む力が必要になる」という結論を投げ出し、その結論をめぐって分析する。

安心社会においては、「関係性を検知する能力」という能力がなければならぬ。なぜかという社会の中では、重要になっていることは、「誰と誰が仲良くして、誰と誰が仲が悪いかということを見極める能力で」「人間関係を読み間違えて行動してしまうと、集団主義社会の中ではその後、大変行きづらくなってしまう」からだ。

現代日本は「安心社会」から「信頼社会」への転換が迫られている、集団主義の「ビクビク人間」型生き方は価値観として若者に考えられたら、困ることになる。

そして、関係性検知能力に優れた人、つまり「社会的ビクビク人間」に対して、筆者は、そういう能力は環境に適応した「素質」だと考える、そして空気を読む能力は「知能指数（IQ）」にも関わっている。

知能について、近年の研究では、人間の知能は七つ大きく分かれている、その七つは、言語的知能、論理/数学的知能、音楽的知能、空間的知能、身体運動的知能、そして自分の心を理解する能力として、自省的知能、他人の心を理解する能力として対人的知能だと分かれている、つまり空気を読むのがうまい人がただある側面の知能が優れているだけである。

また、筆者は「人の心は、スイス・アーミー・ナイフのように、特定の用途のために開発された「心のツール」の集合体である、つまり、人間は、その場に最もふさわしい心のモジュールがその都度、心の中で活性化することで、それぞれの課題がいわば自動的に処理されている」ということを述べている。

最後、「相手の信頼性を検知したり、あるいは人間関係を見抜いたりする素質は誰の中にも備わっている」、ただし環境によって、その能力は十分に発揮できるかできないかに分かれているだと筆者はそういうふう考えている。そして現代日本社会では、空気を読むことは既に、社会のバランスを維持するために不可欠な能力だから、若者にとって、そういう環境を適応しなければならない、そういう能力が身に付ける必要もある。

「授業についての感想」

この授業良かった点は、最初から少しつつ、自分がやりたいことを見つけ出すのがとてもいいところだと僕はそう思っている。僕ら実は、真剣に将来または大学で何かをやるかと、考えないことが多く、きっかけがない限り、そのまま生き続けるかもしれない。しかし授業を通して、少しでもこの四年間または二年間の計画を立てるようになると思う。

そして個人的な意見が、僕たちはそこまで日本語が上達しているわけではないと思って、僕書いたものでもボロボロで、実はチェックしてもできない所も多い、なので、授業中または授業外、クラスメイト、先生のゼミの子またはボランティア、私たちの文章を訂正せず、どこかが目立つ間違い、不適切を教えてくれたら、良いことだろうと私は思っている。

ピクシー事業の基盤作り

高豪振

1. ピクシーと出会い

こんにちは私は将来に私だけのピクシドゥギア・バイクの事業をするのが夢であるコホジンと申します。私は初めて韓国で日本にきた時、友達もたくさんいなくて趣味も特になく、確実に決めた目標もなかった時です。そんな生活が続いて自信もなく生活をしているときに兄にピクシー自転車を受けるようになったことがピクシーに対する夢を持つようになったきっかけでした。

2. ピクシーとは

ここで申し上げたピクシーというのはフルネームでピクシドゥギアバイク (fixed gear bike) と、名前を持つ一般的な自転車とは異なる自転車です。自分が好きな部品で自分だけの自転車を作ることができ、多様な乗り方がある自由な自転車です。

ピクシーに乗り始めながら周りの人たちと会うきっかけになって、一人で部品を求めた途中で日本のピクシー専門売り場で日本の友達もたくさんできました。延いてはオーストラリアや欧州、諸外国から来た友達も出会います。

この時から私だけのクルーを作って少しでも少数人数と一緒に活動をしています。ある日は誰かの紹介でピスト自転車に乗る人と二人で走った時がありました。その時その人が「軽く走りましょう」と言ったのに、とても激しく速く走るのを見て「これぜったいかるくないけど」と思いながら頑張っつついていこうとしたけど無理でした。その人はそれが軽くに乗ったのだろうが、私は負けたくない性格があるために私はあの日からトレーニングを本当に、本当に頑張っつつ今やっと同じレベルになって一緒に走っています。今も走る時に後ろで私を一所懸命追いかけてくれている人たちを見ると、あ、「私もあの時期があったなー」と、思い出を振り返ったりします。

3. ピクシー事業の基盤

これからも、私は私の人生の目標を持ってくれたピクシーと一緒にしたいという確かな夢を持つようになりました。大学生活では様々な専門知識を見て学んで、ピクシー事業の基盤を作って行きたいです。

それではこの夢のために大学生活で何を学ぶのかを言うと、まずはコミュニケーション力です。未来に私がピクシー事業をするようになると、多くの人と会って話し合い、説得を行うと思います。

コミュニケーションは、人と人の関係に本当に重要な役割をしたいと思います。そのために大学生活中に多くの学生と教授たちのコミュニケーションを聞いて学んで得て行きたいです

そして機会があれば都市政策学科に入ってキャド（CAD）と建築デザインを学びたいです。 これらも私の夢のために付加的にプラスがあれば多くの役になると思います。

例えば、自転車とインテリアとの組合とか、自転車の映像とか、キャドの活用により部品または自転車ショップ建築の設計とかのことです。 それで2回生の学科選択は都市政策課かメディア政策に入ることを考えて、学べないことは別で学ぶと考えを持っています。

したがって、もちろん多くの方が就業のため夢のために学校を通っているが、私にとっての 関西学院大学とは就職だけのために通っている場所じゃなく、私の未来のため、能力を育成する場所でありたいと思います。

4. 負けない対話 （高橋賢太郎）

負けない対話。私は今回の夏休みにさらに自分を成長させるために、自己啓発書の中でも人生で人々と一緒にともに生きるために、重要だと言える言語の能力を得るために、そして自転車に乗るときのチームワークのために高橋賢太郎が著作した負けない対話という本を読みました。

この本を読みながらアリストテレス時代の弁論術について言及していて、そんなに長い時間の前、すでに人たちを説得することに対して関心を持って研究しているのが、それが今日まで適用されるという事実が本当に驚くべきものです。

弁論術は聴衆が持っている知識の範囲内で聴衆が理解しやすく説明して相手の心を変えるようにする事ということ、そしてそれが本人の心や徳成とは関係なく技術が必要だということを分かるようになりました。 事実このように具体的に指摘しなくても、私たちは無意識のうちに、そうしたパターンを利用し、人々と話し合い、説得します。 もちろん、パターンを知って意図的にアプローチするなら、所期の目的をもっとよくできるだろうと感じるようになりました。

「現実的な生活の中で弁論術を生かすためにこの本の見方で見ると、トポスという説得のための必勝の話のパターン程度に理解すれば足りそうだ。」 p61

《引用》

この一つの文章で負けない対話を減らして置いた文を見ることができました。撮っておいた目次にも見られるようにこの本にはトポスという言葉が頻繁に登場します。最初に、トポスが知られていないので気になっていたが、トポスとは容易に言って公式のように言葉のパターンを作っておいた形態を指すと明らかになると言うことでした。話を展開するためにはパターンが必要であり、そのようなパターンを経て、物語がさらに発展します。ともに、説得力まで持つようになります。

この本が単に対話に負けない法を取り上げたのではなくて、説得の技術まで内包していることに、単に勝利しようとする戦闘的な姿勢ではなく、共感の必要性まで言及しています。現実の討論の過程で、最も役立つ内容が載っており、本によれば、特別な知識や専門用語を使わなくても相手を説得できる方法があるとしたら本を読み行く頃には論理的に相手を説得するようになれると思いました。それで、ソクラテスの説得法を要約すると、

「1. 言う人の人柄」 「2. 聞く人の気分」 「3. 内容の正しさ」

をあげられました。もし自分がいくら優れた言弁力を持っていても相手が準備できていないなら、何の意味がないという意味です。

5. この本を読んで

私的な会話だけでなく、面接や口頭スタディーでも、自転車仲間との訓練も十分に活用できると思いました。

口だけのものが全てではないことを分かるように、人性も一緒に考慮するという点でもっと悟ったことが多かった本です。

弁論と説得はただ政治家またはビジネス従事者たちのものではなく、人なら生きていればいくらでも人たちを説得しなければならない時に向き合うと思えます。

そのたびに、自分の意見を貫徹させることができるというのは大きな力だと思いました。とくに自転車のことも同じでしょう。

本の内容で「討論は単純に勝てば良いのではなく、本来討論というもっとよい結論を誘導するための手段である」と言葉が出てくるが、その中身をみると、硬い弁論術だけが出てくるのではなく、人間の基本常識的として相手を配慮しながら説得し、より良い結果を生むための暖かい雰囲気も感じられました。

この本を通じて自己啓発もなり、他人の立場で、そして私の立場を回ってみ

るようになって性格的な部分でも役に立ったと思います。

6. 夏休み 東京行き

私は1年生の夏休みにピスト自転車のメンバーと3人で、9月1日から9月5日まで競輪自転車で大阪から東京行きを挑戦しました。肉体的も精神的も、あまりにも疲れている状態でお互い、対話をする数が少なくなりました。

行く途中にアキレス腱に無理がきたか、痛症がひどくなりました。みんなも同じく、どこかが痛いはずだと思ったので、リーダーとして、痛いと言い、自転車を止めることはできません。それぞれケガを抱えていきながら目標の東京まで約300kmを頑張っようやく着きました。この3日目からは何回も諦めたい自分との闘いだっったと思います。

すごくつらかったと思いますが、一生忘れないと思います。私が未来に自転車の事業のための基盤をつくりだすためには何度もいけると思いました。

7. これからは (大学生活)

これからは夏休みを利用していろいろの国に自転車を持って行って旅行をするつもりです。それと、ピクシードギアバイクなりのファッションのデザインとかも作りだして、販売する方法も実行しています。

それで、春学期には都市政策学科も考えて様々なピクシー事業の基盤のための勉強をしようと思いましたが、今回の秋学期を生活しながらメディア学科のほうがピクシー事業の多くの役になると判断しました。それで都市政策学科よりは、メディア政策学科を選択しようと考えを持っています。

このようなすべての基本として持ち続けていきたいところは何よりも人を最優先という心を持つことです。私がしたいとする自転車事業もそうですが、私は今、大阪のサイロントショットと言う自転車チームリーダーをしています。

リーダーは多くの仲間の意見を聞かなければならない立場です。個々人の意見を聞く時は確かにお互いのトラブルが生じるはずですが、そうする時にこれまでは運が多いことをカバーしてきたと思うのですが、これからは技術だけじゃなくて、私は大学ではいろいろの人とコミュニケーション、つまり、単なる言語の実力だけじゃなくて、人の心を読んでその人の心を共感できる能力を学んでいきたいです。これがうまくいけば、明確に同僚を引っ張っていくことに、さらに人材をつくることも未来の自転車事業にも大きなプラスになるのだと思います。

8. 「授業についての感想」

日本語授業を通して一番よかった点はレポートのテーマである 4 年間の大学生活で何をするのかです。私たちには関西学院大学を入学する前には、ほとんどが受験の目標を達成して、私たち 1 年生としての目標を考えなければなりませんでした。その時、日本語 1 の月曜日の授業で週 1 日は大学生活 4 年間、さらにその後の未来を考えることができたということが一番良かったと思います。改善してほしいことはとくにありません。

自分の日本語でコミュニケーションへ

—日本語勉強方法の転換

張敬

前言

日本語が上手になるのをやりたい私が、日本に来るこの二年間、いつも日本語をどう学べればいいのかどうやって活用できるか戸惑ってしまった。本レポートを書くには自分の勉強方法転換も得ると言える。本文は日本語勉強に関する思いである、一番やりたいことが日本語を勉強するのがもちろん、勉強の途中に発見された勉強方法を用いて日本語が習得に達するのを求めることだ。

日本語との出会い

日本に来る前に、中国で日系企業に働いたことをきっかけで、日本人と接することが始まった。日本人が仕事にはまじめで、いつでもどこでも精一杯で仕事に励んでいる様子を心にかけていた。仕事上に日本人先輩と接することをはじめ、先輩が細かいな考え方に感心しており、先輩が来社後、会社の売上がどんどん伸ばしていった実績が皆の目に入った途端、先輩の会社経営方法など感銘を受け、なぜそんな立派な考えがあるのだろうか、どうやって考えを細かくして仕事はうまくようになるのか、それが日本の文化と何か関係があるのではないかと思いながら、中国人としての私、特に性格が大まかで自分の欠点を変えようとする私には、それが勉強すべきところだと思う。

日本語との触れ合い

日本の文化と中国の文化が似ているところが多いが、違うところも多い。言葉があるこそ、人間と人間の繋がりが立てられ、コミュニケーションを行って始めて、文化が生じると思う。言語活動とは、個人と社会を結ぶという活動に他ならないからです。【考えるための日本語】〈細川英雄,NPO 法人（言語文化教育研究所 2003-2004）〉そのため、違う言語を習得して、違う文化も身につけるのではなかろうか。

日本語を勉強する前に、日本語の文章をよんだりして、平仮名と片仮名を除き、漢字のみを見て、内容がなんとなくわかったから、母語も漢字の私、日本語を勉強するとすれば、早く覚えるのではないかと思った。また、子供から日本のアニメが大好きで、日本語ができれば、日本語版のアニメとドラマなどを見るのも楽しみだった、それだけでなく、日本人と日本語でコミュニケーションすることによって、日本のいいものも取り入れるのだろう。

そのため、10か月ぐらい休職して、中国の日本語学校に通うことが決めた。その時、日本語のN1試験能力証を取った。ところが、実際に日本語の運用能力がなかなか足りないと思った。例えば、自分の言いたいことをちゃんと表せなかったり、日本人と対話する時、中国式の日本語を言ったりなどが、意味がなかなか通じない時もあった。話すより書くほうが上だが、日本人とコミュニケーション時、ただ書く内容のみ日本人に見せれば、コミュニケーションということが成り立てられないだろうと気が付いた。もう一つ気になるところがある、日本語の発音というものだ。日本語がうまく話せないというより私の発音には聞き間違える時もよくあった。日本語学校の先生も中国人のため、(当時日本人の特別講師もいなかった)発音方の指導は多少限界があるのがしょうがないことだが、したがって、日本に行って本番の

日本語を習おうとする考えが溢れてきた。

2014年10月に日本に来た。日本語の学校で一年ほど勉強して、自分の勉強方法は問題があるか、日本語能力がそのままあまり変わらないような気がする。ちょうど当時日本の各学校進学出願の時期のため、言語学校をやめて、さらに日本語を勉強しようと決意した。出願の時、選択肢が二つある。一つは大学で、一つは専門学校だ。自分の国の時大学に入ることがないため、今度大学に入って日本語を勉強しながら、自分をいろいろ未知な知識が充実させ、日本人先生から教えてもらえば、日本人の考え力を覚える早道になるのだろうと憧れている。

日本語の戦い

日本語の話すより書くほうが上手なおかげで、大学に入るチャンスがもらった。大学には理想通りに、先生も日本人であり、クラスメートも日本人であり、しかも学ぶ知識が全部日本語で書かれてあるから、日本語もおのずと身に覚えるのは間違いがないだろうと思ってしまった。

ところが、現実には想像より厳しい状態に陥ってしまった。春学期に入り、すべての授業は日本語で行われているため、日本語が下手な私にとって、授業の内容には頭が回れないぐらい毎日が過ごしている。先生方が人によって、発音も違うため、聞き取れる事と、聞き取れないことが二つ道に分かれている。それだけでなく、プレゼンテーションの時、発音の原因のせいか内容もちゃんと伝えられないという話も聞いた。日本語の勉強は発音のほうがかんなに重要なことかかわかった。それに、授業の内容を深く理解するために、よくレポートを書くという形で宿題を出される。さらに、大学のレポートが感想文や作文などと違って、専門知識を用いて論理的に書きなさいと要求されるため、日本語ができなければ、知識が理解不可能となり、書くこともできないのが当然だろう。今更、大学の内容を学びこなすために、聞くことと書くことがこんなに深くつながりがあることか、さらに日本語の習得の重要性がもう一段階に頭の中に深めてきている。

そのため、いつも憧れる日本文化をさておき、お先にやっていることをうまくやれるように、日本語の語学を学習することを前提にして置くべきだと決意した。しかしながら、日本語は聞く、話す、読む、書くには一体どんないい方法があるか？言い換えれば、自分に合う方法がどうだろうかわからなかった。

日本語の勉強方法転換&読書レビュー

今まで、よく日本語を身につく重要性が何だかよく出ているようだが、ちなみに、前に書かれているように、日本語学校を通っていた時、自分の日本語勉強方法が不適切と言うか、一年間も日本語が上手にならないのだ。それに、今までも日本語をどう勉強すればいいか自分に適当な方法がまた自分検討中だが、とりあえず、基本的文法や発音から練習しておこうと考えた。しかし、大学の授業を受けた時、先生たちが日本語の文法や発音などの面に日本語学校と違って、全然訂正してくれないのだ。私が書いた文章は先生たちがよくわかったか、それとも、自分のミスをしてしまったらわからずに済んでしまって、上手になれるか心配だった。夏休み中に先生のおかげで、「考えるための日本語」という本を読んだ後、自分が日本語の勉強する方法に関しては考えが変わってきて、心配することなどが消えてしまった。

本によると、「言葉の教育とは様々な社会形成の中で他者とのコミュニケーションによって、自己を表現する力をつける事であると考える…担当者は学習者の表現活動の支援を行くべきと述べたが、その

ような立場からは、学習者に対して行われる「添削」という作業についてももう一同考えてみる必要性がある。…(略) 教師は学習者の“考えていること”が本当わかっているのでしょうか。…(略) 学習者は教師の添削を受けることで、いつのまにか自分で“考えていること”をやめてしまっていないでしょうか。…(略) 正確性よりも、情報の質としての説得の可能性、つまり学習者の“言いたいこと”が重要なものになるでしょう。学習者は“正しい言葉”の束縛から解放されて初めて、自分自身の言葉を自分なりのコミュニケーションのスタイルによって他者に提示することを体得するのだ。”【考えるための日本語】〈細川英雄, NPO 法人(言語文化教育研究所 2003-2004)〉

以上述べた通り、日本語学習者にとって、日本語を勉強するためには単なる文法や発音には工夫するのは効果があるわけではないが(こちらは発音や文法など重要じゃないという意味ではない)、要するに、自分の言いたいことをお先に相手に伝えることだ。発音によって、聞き手は勘違い時があるかもしれないが、言葉でのコミュニケーションは、まず、自分の考えを他者に伝えるのを前提とすると考えられる。自分なりの話し方でも構わないが、ちゃんと皆に話そうとしたら、言語学習の目的を果たすことになる。“コミュニケーション活動能力を獲得するのは…学習者自身が自らの考えていることを他者に向けて表現しようとする意味において、初めて立ち現れる能力なのです。”【考えるための日本語】〈細川英雄, NPO 法人(言語文化教育研究所 2003-2004)〉 伝えるうちに、相手がわからないところを聞かせ、理解できるように、自分なりの言葉で説明することだ。つまり、相手にわからせるように、自己表現という形で伝えることである。また、相手が「今、何を考えているのか」、「あなたが一番知りたいの何か」という疑問を持ち、自分の考えと合わせて、もう一段階相手と言い合わせるうちに、話し手の意図を捕まえ、自分なりの説明を他者に伝えるということだ。さらに、自分の知らない言葉や表し方を見つけ、言葉メカニズムを調節し、自己表現を達することになる、そうしたら、日本語でコミュニケーションが立ち上がってきて、日本語を習得することになると考える。

日本語が上手ではないと思いつつ、日本語がどう学ぶいいかもわからない私が、この本を読んだことより、日本語勉強方法へ導いてくれたと思う。一言でいえば、これ以上私がいつも求めている日本語勉強方法ではないでしょうか？

じっくり考えれば、現在、受けている日本語授業がそうではないか？自分が書いた文章皆に見せて、皆から質問や疑惑をもらい、書いた文章はどのような意図があるか自分の言葉で皆に答えたり、そのうちに自分なりの言葉がどんどん出てきたりして、どう言えばいいかわからない時や文法、発音を間違える時があるかもしれないが、何回も皆に説明するうちに、知らず知らず頭中の言語庫が更新され、皆にわからせるような言葉が発見し、伝えるのを果たして、日本語が覚えてくるのが以上述べた方法ではないでしょうか。

将来の向かい

なぜ、こんなに一生懸命日本語の勉強に取り込んでいるかと言うと、当然今後の先に関わると考えられる。卒業の直後、社会人になり、就職の情勢に迫られると見込んでいるため、日本に就職しようとする私には日本語の習得するのが不可欠な条件であろう。職場に入り、職場の中にうまくいけるように、言語が伝わるのはコミュニケーション手段の一つ重要な要素として、足りなければいけないことが当然だ。他者との関係を築き、日本人の考えと近づけるように、自分の意思を日本語で伝え、相手が理解したうえで聞きたい情報をもらい、意思融通性を求め、言葉でコミュニケーションすることができなければならな

いのだ。中国仕事経験により、自分が一段と成長できていたが、さらに自分が将来活躍しようと、日本語の習得することが自己実現とつながっていると考えられる。つまり、現在日本語の勉強することが将来への向上基礎になるのである。

終わりに（今までの感想）

日本語の勉強も含めて、これから勉強にあたるものがまだ多い、学ぶ過程の中に新しい考え及び発見がどんどん出ているかもしれないが、この日本語を勉強することによって、自己発現になると思う。それが今後の課題だと考えられる。それに、今度の授業を受けたうえでもっとも重要な収穫は日本語勉強方法を見つけたということだ。大学に入ったばかりの時、日本語ができなくて授業には大変困った時があったが、それで大学の日本語授業を受けることで自分の日本語が上手になると願っていた。しかし、大学の日本語授業が日本語学校と全然違って、基礎知識（文法、発音など）が一切含めずにこのようにすれば、基礎知識が弱い私は日本語が上手になるか思惑してしまった。先生のおかげで紹介してもらった本を読んだ後、大学の言語教育は基礎知識より日本語の運用能力のほうが重視していることがわかってきた。相手に伝わるように、言葉遣いを繰り返して練習する過程がややこしいが、最後に思えないほど日本語が上手になってきて、同時に自分の考え及び知識の理解能力も向上してきたことも気がついた。つきましては、大学の言語教育どうやって実施されているかというプロセスわかってきて、それに沿って、日本語勉強方法を実用し、上手になることとともに心配が消えてしまった。また、大学生活の中に導いてくれる先生も重要だ、及び先生に紹介してもらった本も重要だというこの二つことが実感した。二年生から自分の日本語がさらにうまくいけるだろうかと自信がある。

授業への感想としては、今まで大学日本語授業によっては、いろいろどうやって相手に伝えればいいか勉強になるものが多いだが、同時に文章を書く時にどうやって書けば相手に疑問とか出されないようによく考えたと言える、授業中に様々ないやそうな質問出されるのが困ったのが私一人だけでなく、皆の共感だと思う。要するに相手にそんなに価値がなさそうな疑問を出されて、書き手にはそれは甘くなくてあまり意味がないと思われる。逆に相手が疑問を出させないような文章を書いてしまった。また、自分がこれから文章をどうやって書けばいいか困ること以外に何も役に立つことがないと気がする。私は先生のおかげで本を紹介してもらって、大学の日本語授業はそんなものなのだと知っているのが幸いだったが、この本を読んでないクラスメートは今度文章を書く目的は自分が書いた内容は将来の自分が本当やりたいこととなるのか、それとも、相手の疑いそうな口を閉じさせるのか、それがわからなくなる可能性があるかもしれない、簡単に言えば、書いた文章は本当自分がやりたいこととは限らない、逆にただ宿題を完成させるように嘘ついた文章を書いてしまって、そのため、授業の本旨がなくなってしまう。「考えるため日本語」により、読み手は書き手に質問があれば、婉曲的に質問を出すようにするのを求めるのだが、最後に婉曲性が勉強できずに嫌がらそうな感じばかりになって、読み手から自分がせっかく書いた文章には否定するからだ。最後に日本語が上手な人が言うばかりで、あまり話せない人はまあまああなたが話せるので話して、こちらは話さずに自己スペースの中にいいじゃないかと思われる。今度の授業により、どうやって皆に説明すればいいか日本語の話方が少し上手になったのが否めないことだが、それに大学の授業は将来社会に入る私たちのため、活用できるような考えが育てるように設定されていると考えられるので、さらに日本語のほうも活用できるような内容を設置してもらえば興味ももっと生じると思う。

以上は個人的な考えなので、甘いものと思われたらお許しください。

環境保護

故郷の環境改善へ

担当教師：牲川 波都季

総合政策学部 1年生

張 テツキン

目次

1. 初めに.....	P2
2. 私と自然環境.....	P2
3. 故郷と自然環境.....	P2
4. 私と故郷.....	P2
5. 人口の増加と水資源.....	P3
6. 人と環境意識.....	P4
7. 現在中国の環境意識.....	P5
8. まとめ.....	p5

1. 初めに

今回は大学で一番したいことについて論じたいと考える。

そこで、一番したいことは環境についての専門知識を身に付き、故郷の環境問題を改善することである。

2. 私と自然環境

自然環境とは、人間や生物を取り巻き、その生存や行動などに密接な関連を持つ、土地・大気・水・生物などからなる自然界の状況である。（「三省堂 大辞林」2015年版）つまり、人間の活動により周りの環境を変化し、発生した問題である。

人間や生物は自然環境を抜け、独自で生きることができないため、今環境汚染を解決するのが深刻な問題になっている。

よく考えると、環境に興味を持ったのは中学校の時だった。学校の先生が環境保護についての作文を宿題として出し、私は自然環境の保護について種々のことを調べた。そこで、私は初めて自然環境について関心を持つことにした。しかしながら、中学校の時は宿題が多いため、環境保護について調べようにも時間がなかった。私は環境保護への関心は徐々に弱くなって行った。

改めて環境保護への熱情を再燃したのは2012年の北京のPM2.5事件である。その事件を通じて、私は我が国の環境を改善せざるを得ない状況だとわかった。したがって、私は大学で自然環境について学習することにした。

3. 故郷（蘇州）と自然環境

私の故郷蘇州は「東洋のヴェニス」と呼ばれている綺麗な水郷であり、ヴェネツィアよりも古い歴史を持っている。

蘇州は古来、北京と杭州を結ぶ京杭大運河が通り水運もよく利用し、運河による水運が生活に溶け込んでいる。観光客は船を利用し、蘇州を観光することができる。船で橋の下のアーチを通過することで、昔の建物は徐々に現代建築に移り変わることが見れ、皆は時代の変遷に驚嘆する。

しかしながら、近年蘇州は工業化が進み、住民の生活は次第に好転するとは言え、汚染は深刻になり続け、住民の環境保護への意識も毎年減っていく傾向がある。昔の澄み切った水は今ではもはや真っ黒になり、観光客も年々減っていく。（図1）（図2）



図 1



図 2

政府は2011年から毎年1000万元を環境改善に投入し続けるが工場の廃水問題や排気汚染

はいまだには解決してない。国内の環境に関する専門家はあまりにも少なく、政府も無策になっている。

4. 私と故郷（蘇州）

私は小さいころよく家の近くの川でおじいさんと一緒に釣りをしていた。釣りは待つのが必要であり、もし根気がなく餌をチェックしたら、逆に魚を驚かせ釣れなくなる可能性が高い。その時期私は初めて急がば回れを知った。

蘇州は私を生まれ育った所で、地元的环境も私の性格や考え方を影響していた。なぜか水や山の近くに暮らしている人々の性格は穏やかで優しいだが考え方は伝統的である。中国では「叶落归根」という諺がありその意味は文字通り、人は葉が木の養分を吸って育て死んだら木の根の元に落ち、また木の養分になるように、人は故郷に育てられて最後はきっと故郷に戻り、故郷の人々により良い生活を暮らせるように自分の力を注ぐべきである。

蘇州は上海のすぐ隣だから、工場や技術を飛躍的に進んでいる。しかしながら、環境は急激に悪化して行く。昔よく釣りに行った川はもうすでに黒くなり、魚どころか生き物も見つからない。夏になると、川の近くに住んでいる人々は川からの悪臭を耐えられず常に窓を閉まっている。

蘇州は日本企業とのかかわりが強く、環境を改善する企業もいくつかがある。工業や技術方面の人材は余裕があり、環境改善を目的とした研究者は足りない。私は2年生のときは環境専門に進み、故郷の環境を改善しようとしている。

しかしながら、現在の私は環境改善についての研究どころか、環境会社にも入れない。自分の知識の乏しさを感じ、一年生の夏休みで環境に関係ある本を読み、少しでも環境に関係ある知識を獲得しようとしていた。

5. 人口の増加と水資源

一年生の夏休みでは砂田憲吾さんの「アジアの流域水問題」を読んだ。本書はアジアにおける河川と流域の水管理について書いている。中には、中国長江流域の“洞庭湖”を含む9カ国の特徴的な河川について分析し、河川の歴史や現状について書いてある。

本を読んだ後、特に印象に残ったのは人口の増加と水資源の問題である。過去の日本にも100年間の間に人口が3倍に急増し、流域の都市化も首都圏などの都市域で急激に進展し、水害や水の需要量の増大に対する水資源の供給、水質の汚染、さらには水域の生態系に大きな問題を生じさせた。そして、人口が増加し水資源に及ぼす影響としては大きく分けて、1、多すぎる水の問題：洪水 2、少なすぎる水の問題：渇水 3、水質の問題：水汚染 三つである。

水汚染の問題として典型的なのはベトナムである。ベトナムでは、8600万人の人口の70%が典型的な水文明の農村部に暮らしているベトナムも近年の都市化と工業化により、農業用地と農業用水を多く吸収し続けている。発展のため水需要量を増加するのがやむを得ないことだが、都市部や工業地域などの生活排水、工業排水が年々増加し、汚水処理の速度が廃水の排出速度に追いつかなく、清潔な水を確保できる人口は少なくなっている。

タイも、バンコク首都圏を中心に、急激な都市化の進展や流域内での道路の整備、住宅の開発などが行われてきた。しかしながら、都市化とともに、処理させることなく排水された家庭や工場の汚水により、市内の水路の水は黒く、悪臭を放つようになった。（2008年版「アジアの流域水問題」）

以上の二つの例が蘇州の今の状況に似ている。同じ多くの水のある地域にいる、同じ

人口による急激な都市化が進んでいる。しかし、人口の増加は本当に汚染の要因なのか？

6. 人と環境意識

蘇州は近年経済が飛躍的に進むと同時に、蘇州市の外来人口も急増した。バンコク首都圏のように洪水に浸水することはないが水汚染の問題が深刻になってきた。

知っている通り経済が発展するほど必要、あるいは引きつける人の数が多い。現在、蘇州の外来人口の流入は中国第7位（表1）、地元人口653万人に対し、外来人口は401万人である。（2015年蘇州市役所統計データ）

そして蘇州の人口密度1191人/km²に対し東京の人口密度は6016人/km²である。（表2）東京の人口密度が高いのに、なぜ東京の環境は蘇州よりいいだろうか。それは人々が環境保護への意識が足りないからだ。

ランキング	地域	住んでいる人 (万人)	地元の人口 (万人)	流入人口 (万人)
1	上海	2380	1426	954
2	北京	2069	1297	772
3	深圳	1054	299	755
4	東莞	829	186	643
4	広州	1283	822	461
5	天津	1413	993	420
6	蘇州	1054	653	401
7	佛山	726	377	349
8	成都	1417	1173	244
9	アモイ	398	193	205

表1 流入人口ランキング

表2 都道府県人口密度ランキング

ここで、環境教育の重要性が出てきた。人々はただ「環境教育を重視しろ」と叫びながらも、環境教育の内容と進み方がなかなか重視してない。環境教育とは環境問題を教えれば良いと考える人が多いでしょう。しかしながら、環境教育は環境問題を教えるだけではなく、環境教育とは「人と人、人と自然、人と地域、人と文化・歴史、人と地球との関係性の再構築に向けての教育」である。（小澤紀美子著「持続可能な社会を作る環境教育論—次世代リーダー育成に向けて」P.8）

環境教育を重視せず、人々は環境意識、行動がなければ、いくら浄化技術を発達しても結局環境問題が出てくる。

7. 現在中国の環境意識

2011年北京のPM2.5事件が発生した後中国政府は環境への重視度が高まっていた。中国では2002年から小学校、中学校、高校にも環境教育課程を設立し始めている。

しかしながら、今の環境教育課程は成功とは言えない、特に小学校の環境教育は欧米諸国と比べレベルが違う。フランスの小学校は省エネ課程を設定し、省エネ専門な先生が授業をしている。

それに対し、(図1)中国は小学生に自分で問題を考え、その答えに対して正しいかどうかは先生自身が判断する形式で環境教育を行われていく。教育自身があまり問題ないが、

我们的地球母亲正在遭受这样的破坏：沙暴，洪水，污染……所有这些有一部分是因为我们没有好好保护我们的好朋友——动物和植物引起的。为此，我们国家采取了一系列的措施来保护野生动植物，因为保护动植物就是保护自然环境，也就是保护我们人类自己。

思考：

(1) 你知道动植物对于我们人类有哪些作用吗？

(2) 我国为野生动植物采取了哪些措施？

(3) 讨论：假如你看到有人在乱砍树木或捕杀野生动物，应该怎么办？

問題あるのは教師である。

図 3 小学校の教科書 第 1 章 第 1 節

2005 年第 11 卷第 4 期 重慶大学新聞（社会科学版）中国環境教育現状及び対策分析により、我が国は環境教育での投入は不十分である。その理由の一つは投入資金が少ないため、環境教育を教えている先生は環境専門の卒業生ではなく、他の専門の卒業生であり、系統的に環境知識を勉強してない。彼ら自分自身の環境を保護する意識がまだ不十分である。(http://wk.baidu.com/view/3ffc1f4f3169a4517623a302?pn=2&vw=all&pu=、2016/11/08アクセス)

小学生や中学生などの青少年に環境教育を授業課程として教えるのは良いが、昔環境教育を受けてない30代や50代の社会を支えている人たちには環境意識はまだ足りないと考えている。

8. 終わりに

確かに、急速な都市化進展とともに、大都市が形成され、人々が集まり、都市の自我浄化能力が人々に追いつかなく残ったゴミや排出物を勝手に処分するせいに見えるけど、それは表面だと思い、人々が環境への関心、意識のほうが重要だと考えている。

将来は故郷の人々に環境意識を高めるため頑張るつもりである。

参考文献

1. トウツクフォンヴ. 「ベトナム北部における水問題と水質汚染」. 参照先：
http://www.glocol.osaka-u.ac.jp/go/booklet/booklet05_tuc.pdf 2016/10/5
2. 砂田憲吾著. 『アジアの流域水問題』. 技報堂出版. 2008
3. 小澤紀美子. 『持続可能な社会を作る環境教育論一次世代リーダー育成に向けて』. 東海大学出版部. 2015/7/1

授業の感想

大学一年間の日本語授業を通じて、日本語で書く力と話す力は前と比べ、成長したと感じた。

また、授業中でやった「相互評価」も自分の不足が発見でき、素晴らしい授業方式だと思う。

私と合気道の一年間

趙伯岩

1. 合気道との出会い

私は運動好きな人だ。特にラグビーと格闘技への憧れがある。兄貴はラグビー部で活躍してる。ラグビーマンの勇敢や陽気や力強いや野性的なところが魅力だと思って、兄貴のように大学でラグビーをやるつもりだが、三田キャンパスにはラグビー部がない。ラグビーサークルすらもなかった。唯一のラグビー部は上ヶ原キャンパスにある。毎日バスで往復二時間かかるのが嫌だから、ラグビーを諦めた。

三田学園のサークル紹介パンフレットに合気道サークルを見つけた。これも三田キャンパスで唯一の格闘技サークルである。ちょっと気になって、ツイッターで合気道サークルをフォローした。そこで合気道サークルの情報がたくさん載せてる。色々な情報から合気道サークルのことを知った。先輩たちが練習中の姿を見てカッコいい自分もそうのようになりたいと思ったので、ツイッターで主将先輩と連絡した。先輩はとても優しく私に合気道サークルを紹介した。一番印象に残ってるのは主将先輩が言ったこと。“よかったら、一度見学を見に来てね、もし合気道サークルに入りたいと思ったら、帰るときに次の練習も来るって言ったらいい。逆に入る気がなかったら、何も言わなくても大丈夫だ”と言った。気まずい状況がないから、気楽に行けそうと思ったので、見学を見に行った。やはり自分は格闘技が好きだ。先輩たちのようになりたい。しかも、ちょうどそのとき同じ見学を見に行く一年生の子がおった。みんな優しいから、すぐ仲がいい友達になった。先輩たちも優しいから、合気道サークル内の雰囲気が高く、人間関係の心配もない。一人の理工の子と同じ格闘技に憧れがあるので、約束して一緒に合気道サークルに入ることになった。

2. 合気道サークル

私は合気道サークル内の雰囲気が好きだ。なぜかという、合気道サークル内で気を使わずに、リラックスできる。合気道は精神的な面も重視してるので、サークル内のメンバーたちの性格はとても優しいだ。特に先輩たちがのんびり性格を持つ人が多く、人との付き合いが苦手の人でも、合気道サークルで楽しめる。

最初の稽古に参加するとき、道着がなかった。一般は6月のとき師範に頼んで、買ってもらおう。すぐネットで買っても二週間ぐらい届けるので、次の稽古に間に合わない。月曜日と金曜日は関学の体育館内で行う。木曜日だけは三田道場で行う。関学内の稽古だったら、特別状況から仕方がない、私着で稽古に参加してもいいけど、しかし木曜日の稽古は師範の道場で行うから、さすがに、私着は無理だ。先輩と相談して、卒業したOBの道着を貸してもらった。来年の一年生に貸してもらった道着を渡すことは合気道サークル内の伝統である。

3. 合気道サークルの稽古

通常は6:30から体育館へ行って、2人で一つ畳を敷く。全部の畳を敷いたから、みんな一緒に着替える。全員が着替えたら、畳で最初の準備運動をやる。準備運動は体全体を柔軟させるためだ。合気道は関節技であ

るため、関節を十分に伸ばしたり、曲げしたりしないと、けがをしやい。体全体の関節をまわしたり、全身の筋を伸ばしたり、足首の左右横倒したり、前に前方に体を回転したり、受け身したり、膝行したりする。

準備運動が終わってから、技の勉強を始める。合気道の反撃する投げ技が多い。相手から攻撃されるとき、相手の力を利用して関節技で相手に反撃する。例えば、正面打ち一教は頭を打ってきた力を利用して、その方向を変えて相手を控える。そこから、足を相手の腹に一步踏まえて、逆方向に第二步を踏まえて、最後相手を完全に倒せるため、相手の方向に第三步を踏まえる。相手の腕を自分の膝を押さえる。合気道は関節技なので、力はあまり使わない技だ。力で相手を投げるのが下手の表現と言われている。

4. 合気道以外

合気道部だったら、毎回の練習に参加しなければならない。ここは合気道サークルなので、自分の都合のいい時間に参加できる。別に参加できなくても、先輩から叱られない。今年に入った一年生たちも面白い人ばかりだ。金曜日の稽古が始まる前に1コマの時間が空いてるから、良く一緒に時間を潰す。稽古が終わったら、誰かの家でパーティーをすることもよくある。特に一年の男子の仲はとても良い。このサークルのおかげで日本人の友達もできた。大学で日本人の学生達とのコミュニケーションが少ないだ。しかし、合気道サークルを通して、日本人の友達が増えた。一緒に合気道を練習して、一緒に飲み会をやって、本当に楽しい。サークルの友達と出会ってよかった。自分の生活も充実した。つまらない大学生活に楽しみを添えた。将来は留学生の先輩として、留学生の後輩たちに合気道サークルの良いところを教えて、多くの人たちを集めて、留学生と日本人学生のより良い関係を結びたい。日本人学生と留学生一緒に合気道を練習して、同じ目標に頑張ってるので、きっと仲良い友達になれるはずだ。そうすれば、留学生の後輩たちの生活も楽しみに過ごせるかもしれない。

5. 20周年記念日

11月12日に合気道道場で20周年の記念日を迎えてきた。多くのOBやOGや他の道場の方々などがお祝いに来て、とても盛り上がり行行った。全部は三つを分けた。一つ目は演武会である。二つ目は祝賀会である。三つ目は二次会である。

演武会は一年生から合気道をやる、一年生なので、簡単な技をやって、二分間ぐらいで終わる。そして二年生、三年生、四年生、OBOG、他の道場のお祝いに来た人たち、最後は師範の稽古で終わらせる。私も一年生として、参加した。しかし、先輩たちの姿を見たら、自分はまだまだ弱いだと思う。先輩たちの動きは迫力感を与えられる。それと比べて、一年生の稽古は下手すぎる。そのとき、私たちは他の道場の人と同じ名の技をやって、やり方が違うことを気づいた。先輩から教えてもらった。それは流派が異なるので、技のやり方が違うのである。今の私たちは集中して師範のやり方を覚えたらいい。いつか上達者になったら、他の流派の技を勉強するかもしれないが、今はまだ早いだ。

祝賀会は演武会が終わってから、みんな一緒に歩いて行行った近くの居酒屋で行った。最初は一年生一緒に座るけど、いつの間にか席が変わってしまう。私は知らない先輩たちと一緒に座って酒を飲むことが好きじゃないと思ったが、意外に面白かった。知らない人と同じテーブルで酒を飲むのが気まずいと思ったが、合気道の先輩たちはそんな偉そうに見えなく、話しやすかった。途中で先輩から、合気道をやって幸せにな

れるという話しが出て来た。卒業した合気道サークルの先輩たち、サークル内の恋人と結婚することがとても多かった。これは一番印象に残ってる。

祝賀会が終わって、みんな一緒に道場へ戻った。道場内で二次会をやった。私は師範と二人きりで焼酎を飲みながら、留学生として合気道を勉強するについてのことを話した。秋学期木曜日五限まで授業があるから、あまり道場へ行かなかったのだから、師範は時間があればいつでも来てなって言われた。師範は外見から見ると、怖い人だけど、実際に優しいおじさんなのだ。

6. 「修業論」

私は夏休みのとき、「修業論」という本を読んで、武道への理解を深めた。著者によれば天下無敵は最強の武道評価である。「あらゆる敵と戦って、これを斃すこと」誰でもそう思うと思うだろう。しかし、天下無敵は全く不可能のことである。この世の全ての人と戦うことができなく、そして環境の条件も勝敗に左右している。最後はどのぐらい強い人でも体が老衰しているのだから、最高の状態を長く維持できないのである。老衰して、足腰が立たない状態であったりした場合、それを斃したものに天下無敵を名乗ることは許されないだろう。このように、著者は書いている。しかし、私たちは天下無敵を探求している。これは肉体的ではなく、精神的な考えも含めている。敵は見えるものだけではなく、見えないものも敵にする。例えば、自分の体の老衰に対抗すること、運動して病気に対抗すること。この場合の敵は人ではないだろう。今の私にとって、自分を敵にして、自分の限界を超えることは目的である。ちょうど合気道は精神的な面を中心する武道である。著者によれば、合気道界では「開祖」植芝盛平様は「合気道は愛である」という彼の言葉もよく知られている。他人に傷を付くため、合気道を勉強するのではなく、自分が愛する人を守るため、合気道を勉強するというのは私の考えである。

参考文献:

修業論 著者: 内田樹 光文社新書 2013年7月20日

この一年間の授業を通して、自分の日本語力と論文力をアップしました。レポートの書き方もしっかり身につけました。先生とクラスメートからいろんな意見をもらって、何回も繰り返してやりなおして、この論文を完成した。心より感謝申し上げます。

自由に大学四年間を過ごす

楊晨敏

1、はじめに

大学といたら、遊ぶも勉強も含めて好きなことをやりながら、自分の視野を広げる場所である。大学は高校と比べて、違うところは自立と自由ができるかどうかというところだと思う。高校や日本語学校はどんなことでも学校や両親がやってくれ、スケジュールや勉強する科目も決められているが、大学は自分の興味がある授業を選べるし、休みも長くて授業がない自由な時間が多くある。その余裕な時間を利用して、自由に生きたいと思ひ。

2、大学に入った前の生活

中国で高校を卒業してから、すぐ日本にきた。それまで、あまり自由な時間もないし、週末も塾に行かないといけないから、友達と遊びに行く時間がほとんどなくて、好きなことをする時間がない。その時から自由な独立生活がほしいと思ひている。高校を卒業して、友達と一緒にすぐ大学に入学ではなくて、父は日本と貿易関係の仕事をしているきっかけで、日本に留学をしにきた。最初にきた時、初めて一人暮らし生活をして、時間を自分で支配し、自由に好きなことをすることができる。私にとって全く新しい人生とも言える。様々な困難があっても、自分の力で克服するようになった。そのまま二年間の日本語学校を通して、ようやく理想な大学に入った。今から自分の好きなことをやりながら、自由に大学四年間を過ごすつもりである。

3、自由とは

しかし、自由とは何だろうか、一体自分が自由に生きたいとはどういう状態なのかよく一人で考えていた。両親から離れて、一人暮らしをすることが十分満足しているか、夏休みの間、「大好きなことをやって生きよう」(本田健、2013)を読んで、少しわかった。自分が望んでいるのは他のものから拘束・影響を受けないで、心のままで大好きなことをやって、楽しく生きて行くということである。この本は大好きなことをやれない理由から初めて、大好きなことをするとどんな効果があるのか、その時どんな気持ちを抱くのか、自分の大好きなことはどうやって見つけるのか、について解説して、自己啓発のタイプの本である。この本を読んで、時代や景気に左右されないのは、実は、嫌いことを我慢しながらやっている人よりも、大好きなことをやっている人のほうなのだということがよくわかった。しかし、大好きなことをやるには「お金」、「自信」、「勇気」など、いろんなものが必要だと考えるが、著者は「それは、すべてありません」と主張する。とにかく好きなことをやってみるのが大切だ。

4、好きなことをやる

大学に入学してから、もうすぐ一年に経っていた。多く人と知り合い、多くの知識を学んでいた。しかし、課題も多いし、授業以外の時間もアルバイトば

かりしている。好きなことをやる機会が全然ないから、自由に過ごしていることは感じていなかった。私にとって、大好きなことと言ったら、すぐ思い浮べたのは旅行することである。なぜかという、小さい頃両親がよく私を色々なところに連れていく。そして、知らないうちに旅行に深い興味を持って、旅行をすることが好きようになった。本田健（2013）は、「あなたの生き方のモデルは、望むと望まざるとかかわらず、あなたの両親です。両親がどのような人生を生きてきたかが、あなたの生き方にダイレクトに影響を与えています」（p39）と述べている。もう一つの好きなことは映画を見ることである。これは学生時代の唯一の興味だった。夢を描くことができるし、自分の人間性を形成する手本となるから、精神的な自由とも言える。

5、心を癒す——旅行

日本に来てから、ずっと旅行に行きたいが、新しい生活もまだ慣れてないし、お金も必要であるから、今まで授業料と生活費だけで精一杯なのに、旅行することをやめると何回も考えた。確かに、旅行するなら、いっぱいお金がかからなければならないが、逆に考えて、様々な国に行って、各国の建物や町の構造や名所旧跡を見て、それは全て将来大学でまちづくりを勉強する時に役にたつ。そのものはお金で買えないものである。本の最後もこれに対応して、好きなことをやるとお金も稼げないし、逆にいっぱい時間とお金もかかるかもしれないという事実を書いている。それに対し、本田健（2013）は「大好きなことをやって、お金はあとからついてくる」と述べている。確かに、旅行中の経験や拝見した景色は必ず今後の人生の宝物になれる。そして、これから大学四年間を利用して、様々なところに行き、その土地の有名な観光地や昔から残された歴史がある名所旧跡を拝見し、違う地域で違う文化や生活を体験してみ、視野を広げるためのいいチャンスにもなる。私にとって、人生はまだまだ長い時間があるから、毎日同じ場所で同じことをするのが嫌だから、できるだけ外国に旅行をしに行き、人生を充実させる。大学の夏休みと冬休みの時間が長いから、その余裕な時間を利用して、旅行の計画を立つ。自分の心を癒すと同時に、視野を広げる。

いままで外国は日本と韓国しか行かなかった。世界一周はちょっと無理だが、アジアの旅行だけではなくて、ヨーロッパやアフリカの諸国に旅行をしに行きたい。その中、特にフランスのパリに行きたい。その理由として、パリのエッフェル塔、エトワール凱旋門などいろんな有名な観光地がある。また、パリはフランス独特の雰囲気、お洒落な街、何故かアンニュイ空気を味わうには持つ場所だから、ずっと憧れている。機会があれば、必ず一回行ってみる。

6、疲れを飛ばす——映画

自由に感じられることは旅行以外、多分映画を見ることだと思う。映画の中で一番好きなのはコメディ映画である。例えば、ミスタービーン、ホームアローンなど、いろんな面白い映画がある。コメディ映画を見ると、生活中であったいろいろな悲しいことや不快なことを一瞬で忘れて、疲れも吹き飛ばし、精神的に自由になった。映画が終わっても、その楽しさが続く。笑うことを通して、学校での勉強の疲れをなくして、次に勉強する時のための効果にも上げられる。本田健（2013）は「それをやっているだけで嬉しくなってしまう

ようなことが、大好きなことといえます」と述べている。確かに、それが映画を見るときがすごくうれしく感じる。そして、私が見ているのはコメディ映画だけではなくて、日本に来てから、漫画を原作とした実写映画を見るのが好きになった。もともと漫画に興味がある。でも、漫画を読むのが苦手で、なかなか最後まで読めなくて、途中で諦める方が多い。このような実写映画を見ると、すぐ好きになった。今まで「神様の言う通り」「寄生獣」「るろうに剣心」など多くの作品を見た。映画を見る時は日本語の練習にもなれるし、楽しくて満足感にも感じる。今後も楽しく映画をみる。

7、結論

実際には、この本は自分とはずれるところもある。本はその自分がやりたいことを見つけて、やってみてから、自分の仕事になる。そして、そのやりたいことの価値が表すことができると書かれている。しかし、私はそう思わない。最後は効果があっても、なくても、大切ではない。大切なのは大好きなことをやる時の過程が一番意味があると思う。

この四年間で勉強をしても、友達と旅行や遊びに行っても、自分が大好きなことをするのが一番大切だと思う。将来大学時代を思い出すと、苦しいイメージじゃなくて、一生も忘れられない意義がある自由な四年間を過ごしたイメージなら一番いいだと思う。

8、感想

一年間の時間利用して、クラスの人々からももらったコメントを活用し、レポートを何回も書き直した。最初はなぜこんなことをやるのか理解できなかった。毎週の授業を通して、やっとわかった。他人のレポートに対し、自分の意見を言って、論理的な考え方を学ぶことができる。そして、他の人からコメントをもらって、自分とは違う考えの人の意見を聞くことができるようになることで、よりよいコミュニケーションをするために役にたつと考えた。

参考文献

本田健、(2013)「大好きなことをやって生きよう」

理想を向かって ～建築からの大学生活

陸シンコン

1. はじめに

大学で一番やりたいのは建築士プログラムに参加することだ。学んだ知識を利用し、自分の歴史に対する執念を含め、何時か和風建築も設計できるようになりたい。

2. 今までの自分

昔から歴史に濃い興味を持っている。高校の歴史のグループに入ったり、山庄岡八の歴史小説の通訳版を読んだり、日本は一体どういう国だろうと初めて思った。正直、元々理系の私が何故歴史に夢中するかは今もわからない。

日本の大学に入るきっかけは昇学試験で第一志望校に合格しなく、第二志望に合格したけど、自分的にはあまり満足できなかった。元々の高校は昇学専門校から、浪人になることは学生としての恥を意味している。浪人になっても、第一志望に合格することも保証できない。(中国の大学は一般的に、浪人履歴がある学生より、普通高卒生が優先採用される規定がある)悔しいが、それで、他のところで、もう一度自分を挑戦したいという感情が生み出した。父と人生相談の中で、父はそう言った「日本の歴史が気になったら、日本へいけ、しかし二度と失望させるな。」建言より叱りに近い言葉だった。今も、心に刻んでいる。

それから、勉強して、無事に入りたい大学に合格して、今度こそ、ようやく掴んだ機会を無駄しないよう、大学で頑張りたいと思う。

実は高校時代から建築にも大きな興味を持って、今後もそれを本職にするつもりだ。元々父は木造業者なので、いつも私を彼の後を継ぎさせたいと言って、いつの間に私もその気分になってしまった。今、考えてみれば、子供の時代に、よく父の作業中の姿を見て、男ってそういう風が一番だという偏見や誤解は原因の一つだと思う。

そこで、自分の2つの興味を合わせてみればどうだろうという発想を生まれてきた。

3. 発想はどこから？

日本の古代建築は中国からの影響を受けて発展してきた。木造のもTS建築方法は時代ごとに経て、技術的技法的により高くなっていく。中国から流れてきた新しい知識や方法を取り入れ、日本の職人達は、見事な建築物を造っていった。特に、神社や寺院の建築を築く「宮大工」と呼ばれる大工は高度な技術、技法を使って、素晴らしい神社や寺院の建物を造っていったのだ。中国の建築技術と有名な古代建築は歴史の原因で失くすことが多い、日本の技術と建築は完全に保存されている。例えば、日本の京都は昔の長安を参考してほぼ同じ町を設計したが、今の長安(西安)は昔の風采を失い、残されたのは数少ない旧寺院しかない。日本の京都はまだ金銀閣寺など素晴らしい古代建築が残っている。つまり、日本では中国古来の伝統が生きている。そして日本は西洋から学んだ高度な技術を使い、今大阪天守のような伝統風格の現代建築を造った。

最近、数多くの中国人は国力が強かった漢唐時代に興味を持つようになった。日本の技術を使って歴史を復活させることは、前景があると思っている。

4. 何故関学？

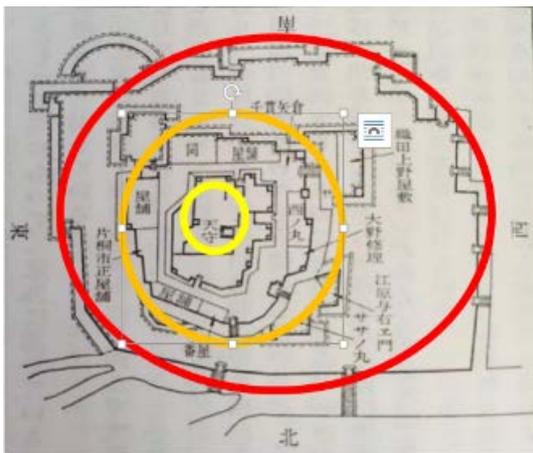
なぜ関学の建築学科を選んだかという、やはり関学の建築に独特の風雅が持っているからだ。関学の建築は他の学校と違って、理系からではなく、文系から生まれた建築である。建築は数学と物理以外に美学、文化、歴史など様々な側面がある。都市政策の先生も沢山いるので、独特な風格を持っている。

技術の面はほぼ同じだが、関学の建築は主流と違って、周りの地域との協調性に注目し

ている。個性的で独特な建築は素晴らしいが、地域の経済と文化、住民の生活習慣と性格を考えながら、一番住み心地が良い建築と建てることこそ関学建築学科の目標である。だから、建築自体の設計はもちろん、まちづくりも重要な一環となっている。私自身も日本の歴史と古い文化にある程度の知識と深い興味があるから、このような発展方向は私の個性に合っている点は気になって、ついに関学の建築学科を選んだ。

5. 大坂城と日本伝統建築

古建築といえば、大阪城のように、雄壮だけではなく、天下人の野望と平和への願いで築き、日本大半の地域文化を象徴した建築物はほぼないと考えられる。夏休みの間、『大阪城』〔岡本良一（1970）〕を読んだ。この古城の建造技術、動員状況、長い歴史、深い影響を味わい、人、文化、建築と社会間の関係に対する理解を深めた。



図一 大阪城慶長年間図（小野清『大阪城誌』より）



図二 大坂夏の陣図屏風 天守

図一によれば、最終的に大阪城は中心が高く周囲が低い地形をうまく利用し、本丸・山里曲輪・二の丸・三の丸から成っている輪郭式で、軍事防御より広大・精巧・美観を重視した。

特別に加筆すべきところは本丸にある天守(図二)だと思う。城中心の小山に建てられ、より一層雄壮さが表れる。財宝、弾薬及び食糧の貯蔵のために建てられ、塔のように高く華麗な天守は信長に発明され、大阪城の築城から流行し、近代になり、城郭の象徴とも言えるほどの建築になった。(昔、大坂城の天守は今と違い、黒い漆に金色の飾りである)『大阪城』〔岡本良一（1970）〕によると、

「大阪城の天守は外観5層で各階を破風で飾り、最上層はその四周に勾欄をめぐらして、眺める便がはかられていた」

大阪城の破風は比翼入母屋破風、入り母屋破風と千鳥破風三つの種類があり、前後と側面にそれぞれ設置され、違う方向から眺めると、外観がかなり異なる。破風の設計は城郭だけではなく日本の民家、寺社にもよく使われる。元々外装の飾り、通風と光の空間(破風の間)を作るための作用を持っていたが、近代になり、徐々にただの飾りになる。

大阪城の三面が水に囲まれ、南の方だけは平地だ、そこから大きい軍勢で攻め込むことができる。城の一番高いところを視野よく開放な空間に修築して警備を完備になった。勾欄は安全のためにその空間を外と分割する大切な部分と考えられる。勾欄上の彫刻は綺麗で、細かいところまで拘る工夫が見える。想像すればわかると思う、真っ黒な城の一番高いところが日光の下に金色の光で輝いている様子は美しいじゃないか。残念なことで、今のお大阪城では、後世で改築したため、昔のように美しい勾欄が見えなくなってしまった。

6. 町づくりと大阪城

個人の考えだが、大阪城は人、建築、社会、文化四つのブロックの関連性を示している。

秀吉は中央集権の体制に影響され、政治利益と自分の権威を確立するために大阪城の普請を行った。そして、大阪城の建造は日本全国の資源と人力を集中し、大阪地域の商売繁盛を推進し、大阪政治体制の形成を加速した。次に、地域の商売繁盛と人情政治（日本政治家大野伴睦：「政治は義理と人情だ」）は大阪人商売好き、人懐っこい、義理人情を大切の印象と深く繋がっている（一般的なイメージによりだが、必ずそうでは限らない）。このようなイメージは秀吉本人性格の反映だと考えられる。



このような段階はいつも社会を推進し、段々各地域の特徴を生み出し、独特な魅力を持たせた。町づくりに応用できれば、町の特徴と独特の文化をとらえ、新しい文化を作られ、文化を商品として地域経済の活性化に役立てる。

7. 結語

戦国時代の最後で、大阪城が築かれた。考え方を変えれば、大阪城は戦争から生まれた治世の曙光である。歴史の流れを经ち、何度もあの時代の画面を人々に語り続けるのは小説家でも、史学者でもなく、残った古建築だ。その言葉を皆に伝えられるのは建築そのものしかないだろう。古建築は先人からの残された宝物として、先人の存在と精神の象徴とも言える。今後、興味と勉強したい専門を組み合わせる歴史的な建築の再建の学びに力を入れたいと思う。

私は、これからも、歴史、社会と文化を元に、建築との関連性を探し出し、建築その物の意味と影響を解明し、「文系から生まれた」関学の建築学科をきわめると思う。

8. 参考文献

『大坂城』, 岩波新書, 岡本良一, 1970

9. 授業についての感想

一年間の授業を通して、日本語の文章表現力がものすごく進歩したと感じた。一年が始まる時800字の文章さえ書けなかったのに、今はもう何千字のレポート出せるなんて、文章書くことが嫌いの自分にとっては不思議なことだ。授業で、各自の考えを皆と分かち合い、表現力を高めるのは楽しかった。

しかし、やはり私はもう少し正式的な日本語文章を書きたいから、レポートや論文を書く方法の指導も望ましいことだ。来年の研究テーマについての指導も、よろしく願います。

総合政策学部

ロマーノ・ミルコ

私の夢に繋がる階段

ラジオキャスターになるための坂は決して簡単ではない

幼い思い出

幼い頃からというもの、私は他人をうんざりさせるほどお話しすることが大好きだった。生まれてからこの26年間の間には、これは一度も変わったことがない。

日本に来る、一年前くらい前に、出演者向けの「イタリア語標準語発音・アクセントコース」に参加するチャンスを得、気軽に通い始めた。その時はただ早口をしっかりと出来るようになり、友達に自慢したかったにすぎない話だったが、いつの間にか参加すればするほど自分の中の世界が変わってきた。早口どころか、自分の当然話していると思った「正しいイタリア語」さえ信じられないほど間違っていたということに気付き、自分の彼女は毎日違う人と浮気することを偶然発見したかのように、あまりにショックを受けた。しかも会話だけではなく、読書力も思っていたより低かった。

時間が経つにつれて、だんだんコースで教えられていたことにはまり、「お話しする」ことを自分の仕事にしたいと思ったことまで単なる興味レベルを超えた。正しい発音の発生の仕方を練習したり、舌の動き、喉や声帯^{せいたい}の仕組みを勉強したりし、イタリア語のアクセントに対する、細かいルールを理解した上、人間の声の素晴らしさに驚いた。

そして、知らないうちについて、私はキャスターとしてラジオで働くことを決意した。「なぜテレビではなく、ラジオがいいのか」とほとんど人は私にこういう質問をする。確かに、ラジオよりテレビのほうがいいという考えはそう間違っていない。ラジオの世界は大分前から人気を失っていき、現在のリスナー¹はテレビの視聴者とまるで比べ物にならないし、就職的にもかなり不安定とも言える。

しかし、ラジオ局はテレビ局といったいどこが違うのだろうか。そう、答えは非常に簡単である。映像がない。音声しか届かないことにかかわらず、リスナーの方はキャスターの声を通し、感情や感動を感じられる。五感はいつつだが、ラジオには聴覚²しかいない、そしてその感を上手く活かし、情報や感情を伝えられる。私にとって、これを心の底から素敵だと思っている。ラジオを手段として出来ることについて考えると、正直鳥肌が出てくる。

さて、ここで少しだけ、小学校の頃で時間を巻き戻そう。

小学校に対する記憶はほぼ大変曖昧で、細かい時期は覚えていないのだが、その頃の気持ちは忘れられない。

小さい頃から、私はイタリア語の全く関係がないアルファベットに関し、わけが分からない興味をもっていた。歴史の授業では、先生が古代エジプトのこと教えていた時、私は教科書に印刷されていたエジプト語の変な文字を夢見ているとばかりの顔で、不思議に眺めていた。

そこである日、東アジアに関する授業で、初めて漢字に出会い、一目惚れであった。教科書に印刷されていた漢字は日本語だったのか。中国語だったのか。良く分からないのだが、その日から私の思考は日本に巡らせ始めた。確かに、「なぜ中国語ではなく、日本なのか」という質問は吐き

¹ リスナー：ラジオを聴いている人々のこと。

² 聴覚：聞くこと。

気を感じるほど言われたことがある。しかし、残念ながらその間に関する答えはない。日本語を勉強したいことを決意した頃は若かったので（10年前以上話だから）、何も覚えていない。ただし、漢字を勉強したくてたまらない理不尽な気持ちのため、年をとればとるほど日本に行きたくなってきた。

そして、やっと高校を卒業すれば、勇気を出し「絶対に日本へ行く」ということを決意した。そこで、日本を訪れるために社会人になり、貯金を始め、そしてちょうどその時期に「イタリア語標準語発音・アクセントコース」は車のように私の歩いていた道を渡り、私を激しく撥ねた。

日本へ非常に行きたかったことと同時に、キャスターのこの新しい道も歩んでいきたくかった。私の前に二筋道が広がっていき、しばらくの間、迷いの含まれていた海に沈みこんでいった。そして、長い時間思考を整理した上で、「夢を全て手に入れたらいいんじゃない」と非常にわがままな考えは、毎日針のように頭を刺し続けていた。気がついたらもう神戸のとある日本語学校で授業を受けていた。

イタリア語アクセントコースの「プレゼント」

「イタリア語標準語発音・アクセントコース」を卒業したため、イタリア語そのものに対する考え方だけではなく、全ての言語の聞き取りも変わり、日本語で話していた自分の発音まで意識し始めた。

発音を気づき始めることは言語学者としては基本的に幸いなことだが、他方ではあまりに面白くない呪いでもある。日本語で何かを話すたび、自分の言語無能力さを感じるのは一切気持ちが良いとは言えないし、まるでとある歌のメロディーに全く違う歌の歌詞を歌ったりする、聞くに堪えないことである。

最初は少し変だった。日本語で話しながら「うーん、なんか違う」と思い始め、意識が良くなれば良くなるほど、日本人の日本語と私の日本語を比べ始めた始末、自分の日本語にうんざりした。

しかし、この聴解能力はネガティブなところだけではなく、もちろん有利な点もあり、私はどちらかというところ嫌いではない。

日本語学校を卒業する時期がやってきた問いに、私は大変悩んでいた。ラジオで働くことを決意した上で、常識に考えると、一番目的が早く達成できるのは専門学校だろう。専門学校に入り、具体的な言語練習をし、2年間の間に非常に良いレベルを身に付き、就職する。「簡単」だろう。

しかし、私にはただの日本語練習は足りないと感じていた。自分のやりたい仕事や将来に関わる環境のためにも、メディアを深く勉強したほうがいいのではないかと思っていた。

やはり、^{あり}蟻のように自分の分業だけに集中し、周りのことを無知のままにいるのはやはり私らしくない。仲間の仕事までしっかり理解し、またはメディアの全ての仕組みや歴史を「自分のものにする」ことは、将来の仕事や同僚の関係を円滑にする³、一番正しい方法であり、私の生き方でもある。

または、非常に痛い話だが、人生は予定通りに進むものではなく、自分の全てを持ち、一生懸命頑張っても、ラジオで勤めないことになる可能性は充分にある。ゆえに、もっと広い範囲の就職が出来る資格を取ったほうが、私や私の将来の家族の安全にも繋がるだろう。だから専門学校ではなく、関学学院大学に入学することにした。

メディアのことが勉強できる「メディア情報学科」を希望し、マスコミの経験がある情報学科の先生方と相談しながら、自分の将来に向かい、進んでいこうと思う。情報学科に入ったら、きっとマスコミを目指している人々や、マスコミ業界に働いている方々に会い、就職のために大切なつながりが出来るだろうと思う。

この世界で就職できるために、そして私自身のためにも、自分の日本語（発音はもちろん、語彙や漢字も）をさらに本物に近いものにする必要がある。これからどのように進めばよいか、大学に通いながら様々な工夫をしていきたいと思う。

³ 円滑にする：スムーズに進むこと。

本に関するロコミは読むべきものである

大学に入学し、やっと秋学期が始まった。学科選択が迫りつつ、私が立てた目的を具体的な計画にすべき必要を感じ始めた。目標を立てることは無論大事だが、何もせずに理想な目的だけを遠くから眺めるのはただの実現できない夢にすぎないだろう。

具体的な何かをしないと現実にはなるまい。

そこで、春学期の夏休み課題は非常に役に立てるだろうと思った。課題として、以前述べた、自分の目的に関する本を3冊の中に1冊を選び、読むことだった。

どの本を選べば良いかということに対して大分悩んだ上、最も役に立てそうと判断したのは「美しい日本語と正しい英語が身につく本」という作品だった。

その本の内容をネットで探れば、「自分の日本語を綺麗にする」沢山のコツを集めた、雑誌形に出版されたものであることが分かった時点、すぐにおもうと思った。

私の発音を完璧にすることと同時に、若者言葉や、他人の気を悪くさせるような言葉を一気になしにできることはどれだけ幸いなことであろう。

しかし、この本を読み始めたら、あまり役に立てないということに気付いた。確かに、日本語を離れた目線であちらこちらを分析し、綺麗な日本語を話せる方法を説明しながら、メッセージを上手く伝える姿勢や態度も触れているが、ほとんどの内容は書き言葉や、普段は絶対に使わない日本語ばかりだった。

言葉の歴史や、昔の言葉に関する豆知識が多く、私のやりたい仕事とあまりに関係がないことを感じた。

古代日本語と現代日本語はいったいどこが違うのか。とある言い方や諺はどこから取り上げられているのか。現在の若者は正しい日本語を知っているのか。この質問には全ての答えはこの本にある。しかし、「日本語をどうやって綺麗にすれば良いか」という、私が期待していた質問には答えは全くなかった。

結局私の目的に役に立てるような内容はほとんどなかった。本の中身は「案の定^{じょう}という言い方は実際に間違っている。実は、案の定^{てい}の方が正しい」のような例ばかりで、残念なことに、本を読み終わったら私の口から「はあ〜」とため息しか出てこなかった。

正しい日本語と正しい敬語が身につく本は私にあまり役に立たなかったことにもかかわらず、良く書かれていると思う。

しかし、次回は本を買う前にすこしでもロコミを読んでおいた方がいいかもしれない。

夢を実現する方法

「美しい日本語と正しい敬語」を選んだ失敗の後、本を適当に探すことをやめ、良い教科書かコースがあるかを調べてみた。

音声の勉強が含まれている授業は、声優コースといい、ラジオナレーターコースといい、様々存在しているようだが、すべては専門学校で行われ、しかもそれぞれは数年間がかかるコースだった。または、学費はほとんど大学と同様で、両方を非常に払えないと感じた。

他方では本屋で何回も探しても、自分にぴったり合うような教科書は見つかりそうになかった。

しかし、私が希望を込め、大学で履修した日本語教育基礎では、私の将来を変える（かもしれない）展開があった。その発展は、音声の指導に関する授業であった。

日本語教育基礎は、外国人に日本語を教えることに関する基礎的な知識を身に付く目標を立てられた授業であるため、音声をはじめ言語教育の様々な側面を軽く分析する。ゆえに、発音を深く勉強しないことによって、私の知りたいことを照らすような答えはなかったわけだ。

それでも、非常に大切なヒントを与えられた。そのヒントは教科書のタイトルである。

音声の授業のレジュメには、「もっと知りたい人」の部分があり、その話題に関する本を様々書いてあった。または、その教科書は全て、私が本屋で見たことがない教科書であった。

それだけではない。レジュメや授業を聴くことにより、検索のキーワードが基本的に間違っていることに気付いた。あの授業に通っているため、教科書をはじめ、ネットやYouTubeではあちらこちら、音声に関するウェブサイトやビデオを見つけるようになった。来日した以来、やっと初めて「見つけた」と胸がいっぱいになりながら考えた。

現在はレポート課題や試験に忙しいため、音声の勉強をきっちり出来ないかもしれないが、これから卒業までは後約3年間が残っている。この三年間、教科書に書かれている練習を毎日する習慣をつけ、なるべくネイティブに近い発音を身に付くつもりである。

ここにたどり着くまでの旅について考えると、今までの道は長かった。2年前には初級レベルであり、コンビニの叔母さんが言っていた「お弁当、温めましょうか」すら聞き取ることが出来なかった。しかし、あっという間に大学に入学し、音声にこだわる余裕がある程、さらに日本語を向上できた。そして今、様々な失敗の後、将来の夢につながるようなヒントを見つけた。これから何が起きるか分からないのだが、以前より一目的に歩に近づいたと感じている。「私はラジオで働く」、この決意はそう簡単に消え去るものではない。

私の旅はもう終わったいるわけではない。むしろ、これから、私の夢に繋がる階段の段差はさらに高くなっていくかもしれない。しかし、これから前より熱心に音声を勉強し、前よりこだわり、完璧な日本語を身に付ける、絶対に。

日本語という授業

関西学院大学に入学して以来、もう一年が経とうとしている。この一年の間に、春学期を通し秋学期にわたって、ずっと日本という授業に通っていた。

日本語 I を始めた頃には、日本語学校のように、日本語の文法や語彙を勉強していただろうと思っていたが、驚きのあまりにそうではなかった。

最初の授業から、先生に「この 4 年間のやりたいことに関して、レポートを書いてほしい」と言われ、そのテーマに基づき、クラスメイトのコメントに合わせながら、レポートをずっと編集した。

授業の目的は、日本語を勉強せず、レポートを書き続けることにより、日本語を徐々に向上することになるはずだったが、私がこの一年を通して、「楽すぎる」としか感じられなかった。そして、今でもそう思う。

確かに、最初に比べれば、私の文章能力は確実に向上したとは言えるが、先生が授業中に日本語の誤りを示してくれれば、もっと早く上達が出来たのではないかと思う。

正直なことを言えば、先生や授業の行い方に対する文句が一切ないはいえ、もう少し大学らしく、厳しい授業を期待していた。

全体的に満足しているが、自分の不足しているところや、強化すべきところを教えてくれれば良かったと思う。

引用文献

1. 日経おとなの OFF. 美しい日本語と正しい敬語が身につく本. 出版地不明 : 日経 BP 社, 2015.

2 クラス

担当 横野 さゆる

はじめに

大学に入ると、さまざまなやりたいことが出てくる。私は自分自身の今までの経験と未来の発想を合わせて、やりたいことを決めるべきだと思う。本文はそれに基づいて、読書を通し、多角的な考え方や日本語力などの能力を身につけるといふ私がやりたいことを紹介したいと思う。

1、今までの読書経験

私は文学に関する本に興味がある。その中でも特に日本の文学が好きだ。最初に日本人はきっと中国人と何が違うと思った。留学を決めたあと、私たちと違う日本人と交流するために何か準備するべきではないかと思って、日本の文学作品を読み始めた。つまり、日本の文学作品を通じて日本人を知るのが最初の目的だった。

日本の文学作家たちは昔から何時も自然を友達の代わりにし、自然がわかる心がある。彼らは自然の美しいところを見つけ、文学の美を創造した。あの独特な作品は私の目を引いた。三年前川端康成さんの「雪国」を読んだ。小説の内容は芸術研究家島村が三回雪国の温泉旅館へ行った時の芸妓駒子、少女葉子の三人の間の感情のこと。作家が雪国の様々な景色を描写することを通して人物間の微妙な感情をよく伝えてくれた。実は今まで私はそんなにたくさんの本を読んではいないが、昔からよく気持ちがふさいだ時や寝る前に好きな本を読む。本を読むと、心がすぐ静かになる。あの気持ちを味わってからは本を読むことが嫌いではなく、むしろ好きになった。

2、多角的な考え方について

大学に入って時間がたつにつれて読書について前と違い、新しい目的が出てきた。知識領域によって考え方が違う場合があるので、幅広い領域の知識を勉強したら、ある問題は一つの答えではないことがわかる。つまり、問題の考え方は多角的になると思う。問題に対し、一つの方面から見ただけではなく、他の人の立場を考え、いくつの答えを知れば、問題を解決するために最もよい答えを見つけられると考える。問題解決ができる人材を育てるということを目的とした総合政策学部に入った私こそ、その多角的な考え方を求めたいと思う。大学で勉強する知識はただ卒業するためのものではなく、一生役に立つものであるべきだと思う、より良い問題解決能力がその一生役に立つ能力の一つではないか。ではどうすれば幅広い領域の知識が得られるのだろうか。方法はたくさんあるかもしれないが、読書に対し、好きな気持ちを持っている私は、たくさん本を読むことならできると思っている。これをきっかけに読書で大学生活を過ごすことにした。

3、論理力を身につけ、多角的な考え方を培う

確かに、読書を通し、幅広い領域の知識を接触できるが、しかし、本の内容によって難しさが違い、ただの読むだけなら、本の内容を理解できない可能性がある。難しい本をよく理解できるように、論理力が必要だと考える。大学の論文を書くために本を参考にする必要がある。前何時も書いていた作文は自分の経験や体験に基づいたものである。それに反して、論文の場合は理論に基づいたものである。論文を書くために本を読むのは、ただの読むことではなく、本が一番伝えたいものを見つけ、論理的に分析するのが必要だと思う。事実の上で論理的に意見を発表する論文を書くために本を読むと、その論理的に分析する能力もだんだん身につけられると思う。本から他人の経験や考え方を参考にして、論

理的に分析すれば、その人の考え方もはっきりわかるので、それをやり続けば考え方も多角的になると考える。

4、読書を通し、日本語力を培う

前京都で通っていた日本語を勉強する語言学校は中国人しかなかったので、日常生活で実際は日本語を使うことが少なかった。そのせいで、今は日本語で日常会話をするのがまだ苦手だ。学業にしる、生活にしる日本語を話せなければかなり辛いことになると思うと、大学四年間で日本人と上手に話せるように頑張ることが必要だと思う。日本語を上手に話せるようになる上で、日本語ができなければならない。日本語は日本語の本を読むことを通して上手になるだろうか。この前に読んだ本は大体中国語の本なので、今後できるだけ日本語の本を読みたいと思う。

夏目漱石.(平成二十七年 百五十刷) .三四郎.新潮社.

5、「三四郎」を論理的に読んでみる

この夏に夏目漱石さんの「三四郎」を読んだ。この本を選んだ理由は二つある。まず、今の私の立場から見ると、まるで小説の主人公三四郎と同じ環境に置かれていることを意識した。小説の時代背景は西洋化が始まったばかりの日本である。熊野の高校から東大に進学した三四郎にとって、伝統的な故郷と西洋化を盛んに行っていた東京はまるで別な世界みたい。中国から来た私も、大学に入ったばかりで、そして文化や社会環境など違った日本で生活している。上の文に書いた通りに、他人の経験を教訓にしなが、自分を成長させる。つまり、一つ目の原因は私と似ている環境にいた三四郎を読んで、何か勉強することである。前に日本の文学作品を通して、日本人を知るの是最初の目的と書いてあった。二つ目の理由はそういうことである。日本人を知るために、「三四郎」を読むのだ。

この小説の内容は、東京に来た三四郎は様々な人と出会って、大都会に様々な方面から衝撃を受けるとともに、成長した物語である。故郷と大きい差がある東京で生活する三四郎の心に三つの世界が形成された。熊野にいる母を代表とした平凡な世界、広田先生を代表とした学問の世界、美禰子を代表とした誘惑が溢れている世界。小説は三四郎の視点でこの三つの世界をめぐる、物語が展開する。三つ目の世界は三四郎にとって最も深厚な世界である。美禰子に強く惹かれた三四郎は、けっきょく選ばれなかった。最後、美禰子が兄の友達と、結婚した。著者は小説を通じて、あの西洋からの良い物悪い物にもかかわらず全部良い物とする時代に対して、皮肉た。

小説の中に一番印象に残ったところは、美禰子という人物である。夏目漱石 (1948)は小説の第七章で美禰子は偽善を行うに露悪をもってする人と書いている(p. 197)。最初ここを読む時、美禰子はどうしてこういう人であるかと考えて、はっきりわからなかった。そして最後のところを読み終わった時、やっと少し分かった。夏目漱石によると偽善という意味は行為自体が目的ではないような善である。例えば、形式上の親切。親切それ自体が目的ではなく、人に善く思われたいことが目的であるような親切である。露悪家という意味は行為自体が目的であるような行為をする人(p. 196)。最後、もう嫁に行くことを決めた美禰子は三四郎と名残惜しげに分別しながら、好感を表した。その時、三四郎は自分自身も彼女に諦められても、好感を表されていることがわかった。表面の言葉や行為は全部人に善く思ってもらうためだとしか感じられない美禰子に対して、三四郎は確かに嫌な感じがした。偽善を偽善そのまま先方に伝える正直なところはちょうど露悪者の特徴である。私はここから美禰子に偽善を行うに露悪をもってする人を見た。

小説最後の解説は美禰子に対し、「無意識の偽善者」と呼びた。あの時代に、西洋化か

らの影響を最も受けた美禰子は、違う文化の衝撃による新たな考え方が出てくるため、「無意識の偽善者」という人間になると考える。美禰子は田舎出身であった三四郎の考え方を理解できず、三四郎も現代都市の女性であった美禰子の考え方を理解できない。もし二人がお互いに相手の考え方を知れば、素直に付き合い、最後の結末も変わったのではないか。

日常生活の中で、他の人の考え方は自分と同じだと考える人が多いだろう。他の人の行為を自分の考え方で見ると、誤解しやすい。グローバル化が進め、違う文化の衝撃が激しい今こそ、相手を理解するため、多角的な考え方が必要だと思う。

まとめ

読書を通し、身につけられる能力が他にもあるかもしれないが、今一応興味があるのは多角的な考え方と日本語力两点である。日本語力と多角的な考え方を持てるように読書で大学生活を過ごしてみたいと思う。

感想

この一年間で月曜日の日本語授業を通して、文章の書き方がよく勉強した。特に長い文章を書くのは前より上手になった。大学に入る前に、日本語で書いた文章の中に最も長いやつは1200字にすぎないため、最初日本語でどうやって長い文章を書くのはわからなかった。今年月曜日の日本語授業で「大学でやりたいこと」というテーマを中心に500字の短い文章から3400字の長い文章までの流れで、ゆっくりと文章を改善してみた。そのおかげで、長い文章を書くためのプロセスを体験できて、長い文章の良い構成、格式、内容などの書き方を身につけた。

素晴らしい空港の改善へ

王淮然

初めに

皆さんは大学に進学した後でいろいろなやりことがある。今回は大学で一番やりたいことについて紹介したいと思う。

そこで、わたしは一番やりたいことは、建築と環境の建設について、特に空港建設についての専門知識を身に付き、素晴らしい空港を改善したいことである。

わたしと空港

空港建設に濃い興味を持ったきっかけは、一年前に日本に来たとき、日本の成田空港施設に驚かされたことだ。

以前、家は大連周水子空港に近かったから、よく友達を迎えに行ったことがある。待っている時間に、たまに外国人の迷った顔を見た、隣にはスタッフはまったく見えなかった。そしてバリアフリー施設が足りないせいで、体が不自由な人がエレベーターを探して行って、不便を感じていた。このような状況によって、空港だけでなく、町の評価も下がるかもしれない。私の知っている限りでは、ほぼ中国全部の空港は基礎施設不足という問題があると思う。

だが、初めて成田空港に行ったとき、自分のミスで荷物が取れず、困ったとき、成田空港のスタッフを私の話を親切に聞いてくれて、問題がすぐ解決した。一人で日本に来た私にとって、サービスに驚かされて、いつの間にか孤独感と不安がなくなった。そして当時に、成田空港にも、東京にも好感が出てきた。

成田空港は大連の空港に比べて、どこでも見えるバリアフリー施設とわかりやすい指示マークがある。このような基礎施設の完備程度、そしてサービスももっと先進的だと思う。だから、その時から、空港建設について興味を持って、どうしても将来は空港建設についての知識を勉強しようと思うようになった。

空港と町の発展

今の経済高速発展社会では、町によって発展モデルが違うから、ある町旅行業を主要な経済発展手段として発展している。例えば、中国では有名なのは西安である。西安では、文物として保護されている建築がたくさんある、それを集めて、観光地になり、多く外国からの観光客を引き付けることが可能だ。

このとき、空港の重要性が目立つようになる。町の観光地がたくさんある場合は、旅行業がうまく発展するかどうか、空港の先進程度で決まると思う。

なぜかというと、前に書いた通りに、空港からのサービスや基礎施設の完備程度は、観光客にとって、町の評価と好感をあげる主な原因だと思う。

だからこそ、空港の建設はもっと重視しなければならないと思う。

空港建設とは

それでは、空港建設とは何だろう？皆さんのイメージはたぶんただターミナルのデザインだけだろう。

確かにターミナルのデザインは重要だと思う。例えば成田空港の第三ターミナルは床面にゴムチップの誘導トラックを敷いて、そして、対面の壁に大胆な**KEY WALL**サインを利用し、ローコストを貫きながら、お客さんはどの場所にも向かうべき方向を直感に誘導できるデザインを採用しており、きれいとともに機能も果たす。

だが、空港建設はただターミナルのデザインだけでなく、ターミナルを建設するとき、周辺のいろいろな有限な資源をもっと利用できるようにするために、地勢や交通や環境などいろいろな方面から考えなければならない。

そして、ターミナル中の施設には、エレベーターをどこに置いたほうがいいのか、バリアフリーの施設をどのぐらい設置したほうがいいのか、お客さんを誘導するためのマークはどこに書いたほうがいいのかなどいろいろな基礎施設問題も考えなければならない。

それ以外は、空港のサービス建設も重要になっていく。具体的に、スタッフはお客さんに対する態度はよいのか、悪いのか。そして緊急事態があった時、対応方法が完備かどうか。このようなソフト方面からの考えは欠かさない。

安全性と空港建設

大学一年の夏休みに養老孟司さんと隈研吾さん書いた対談集「日本人はどう住まうべきか？」を読んだ。本は震災と津波、高齢化社会、地域格差など問題をふまえて、現代人の住まいのあり方について、解剖学家と建築学家が特別な角度から論じた対談集である。一番面白いのは、作家の養老さんは解剖学家、東京大学名誉教授で、隈さんは東京大学建築系教授であるから、分野がぜんぜん違った人々から、広い視点からの考えがどんどん。

本の中でいちばん興味があったのは、安全性とは何かという問題がある。安全基準はどう設定するのか。安全性は空港建設への影響について自分の考えも出てきた。これから具体的に紹介したいと思う。

それは安全基準についての対談部分である。養老孟司 隈研吾（2016）は、次のように述べている。

ブラックユーモアですが、建築の構造計算は基本的に 3 倍の安全率を見えています。もちろんこれは地震に対する備えでもあるんですが、施工階段でへんな手抜きするやつもいるだろうということで、そのリストも上乘せされているんです。建築って、それほどルーズな世界なんですよ。大地という得体の知らないナマモノの上に建てるから、当たり前といえば当たり前なんですけど。だから自動車などの安全基準に比べて、建築の安全基準というのは飛びぬけて高く設定されているんです。（養老孟司 隈研吾、2016、p 30）

確かに、安全性は建築にとっては、空港でもビルでも最も重要な問題である。安全な建築こそ、建築の作用が発揮できるわけだ。もっとも、地方によって、気候とか地勢とかの制限で、構造の安全性は違うけど、統一的な標準は重要になっていく。本の中に書いてあるとおりに、ルーズだからこそ、国家の安全基準は高く設定しなければならない。

しかし、安全性はただ建物が丈夫かどうかだけでなく、危険にあった時の対応も重要だと思う。この前、「ベルギーのブリュッセル国際空港で2度の爆発。場所は空港1階の出発ロビー。」というニュースがあり、このようなテロが起こった時、損失を最小限に下げするために、空港はどんな対応が必要なのか、そして、日常の予防演習があるのか、これに対してもよく考えなければならない。

将来私は就職空港建設にも、安全性は重要な課題であると思う。例えば、まず環境について、空港発展などである、環境の変化に重視されているのか、軽視されているのか。そして、サービス方面から見ると、緊急事態の対応能力は

あるかどうか。

詳しい例で説明すると、地震があったら、空港ターミナルの抗震性は足りるのか、疎開通路は空いているのか、そして同時に地震は空港に何か影響があるかどうか、その影響はどのように減少とかよく考えなければならないと思う。

もう一つ、テロ対応について、損失を最小限に下げる方法は、予防が間違えないだろう。今の羽田空港でやっているテロ訓練が、テロがあった時、通報をうけて、空港テロ対処部隊が取り押さえ、爆発物処理班が火薬を回収する、同時に全空港の職員が落ち着いてお客さんに危険疎開をやっていた訓練である。このような訓練を全国に普及したほうがいいと思う、そして、もっと詳しい対応方法をよく考えなければならない。

以上安全性について、実際に応用するために、具体的な施策方法は、これから都市政策学科で詳しい建築原理や街づくり方針などを勉強しないといけない。

大学で努力の方向

大学では幅広い分野の授業があり、皆は自分の将来の進路を考えながら、目標を作って、好きな分野を選ぶことができる。もちろん、最初はなぜこの進路を選ぶのか、目標を実現するために何が必要か、何をすればいいのか、よく考えた後で、この目標に向かって一生懸命頑張らなければならない。

私の目標は素晴らしい空港建設することなので、大学では、まず、わたしは大学二年生の時、総合政策学部の都市政策学科に入って、交通が便利かどうか、地勢が平坦かどうか、環境にいいかどうかなど、このような有限な交通、地勢、環境など資源を利用するように街づくりにについて専門知識を勉強したいと思う。

そして、建築士プログラムに参加して、建築原理や都市基礎施設原理など具体的な知識の勉強と現場研修を通じて、大学を卒業した後で一級建築士資格を取りたい。そして、大学四年間でバイトとかいろいろな方式で日本先進のサービス業に対する、深く了解したい。最後は大学三年生からの就職活動指導授業に積極的に参加して、将来は基礎施設を完備し、有限な資源も完璧に利用でき、素晴らしい空港を改善できる会社に就職したいと思う。

まとめ

大学でいろいろな活動に参加したり、能力も養ったり、もっと自分の目標を実現するために頑張るのは一番有意義な大学生活だと思う。今私にとって、

目標も決まったから、この目標に向かって一所懸命に頑張らなければならない将来は夢がかなわなくても、少なくとも大学時代努力したがあれば、それは決して無駄ではない。

大学でやりたいことについてのレポートもう何度も書き直した。最初の 800 字から、今の 3200 字まで、クラスメイトと一緒に交流に通じて、内容も自分の考えも増えてきた。この過程で、クラスでの発表に通じて、先生とみんなから意見を交換し、不足を直し、いろいろ勉強した。最後に、空港建設とは何、および安全性の重要性などに関する問題を何度もインターネットで調べて、そして自分の考えと合わせて書き直した、よかったと思う。そして、この調子で、来学期も続いて頑張ろうと思う。

私が4年間の大学でやりたい事

権炫喆 (グオン ヒョンチョル)

1. はじめに

大学生活には色々なことがある。勉強から始め、自分が興味を持っている分野の本を読んだり、スポーツサークルに入って活躍したり、それとも高校時代まではできなかった運転免許を取ってドライブに行ったりして皆それぞれに大学生活を楽しんでいる。

大学は高校までとは違って社会とつながる大事な学び舎でもあるためこれからの人生で重要な時期だと言える。その大事な時期を私は留学生として日本に来ているわけだ。そこで私は本文に私が4年間大学を通いながらしたい事、またはやっておきたい事について語るつもりである。

2. やりたい事

留学のメリットと言えば、何が浮かび上がるだろうか？多分、「その国を旅行できる」とか「言語力向上」などの色々なものを挙げれると思うが、私個人の考えでは多くのものの中、最もメリットがあると思うものは「いろんな国の人々との触れ合いができるメリット」だと思っている。そのため、私が4年間の大学生活の中で最もやっておきたいのは、コミュニティを作ることに決めた。

なぜなら、私が留学をする理由は勉強や就職をするだけではないからでもあるが、そもそも留学の究極的な目標ではないと思っているからでもある。まず勉強面から言うと、私はどの国の大学で勉強をしようが学問を学ぶという点では同じだと思う。つまり大学で学ぶ学問的な部分はその国の文学や歴史を除いたら「世界的に変わりはない」ので、自分の国の大学でも十分に学べるということだ。また、就職面で言うとやはり働く場所が自国ではないので言語の障壁や差別など、自国より楽に働けないかもしれないという面もあると思う。

しかし、人との触れ合いなどの人間関係の面は違う。いわゆる「コミュニティ」というものは国によってある程度差があり、お互いの文化を知らなければ相手を理解できなかつたり誤解される部分があるからだ。そのため私は、普段韓国ではあまり接する機会がなかった外国人と触れ合える今回の留学を通して、様々な人々と合ってお互いの国の文化も知り、友達になれることが留学の一番のメリットだと考えた。そしてその目標をクリアするためにサークルに入ったり、バイトをしたりなどの努力をするつもりだ。

3. 目標のための努力

私はもともと語学に興味があったので、日本語以外にもできる限りいろんな語学を勉強してみたいと大学に入る前から考えていた。もちろん、語学を完璧にこなせるのは難しい。しかし、今の私が日本語を話せるように語学面ではなく会話を中心に勉強して、その国の人と日常会話を話せるくらいにはなりたいと思っている。

ちなみに今、一番勉強したいと思っている語学は中国語である。なぜなら、今の中国は昔とは比べ物にならないほど、経済的に成長しているため一応勉強しておけば損はないと判断したからだ。また、韓国の友達の中に中国語を専攻している子が3人もいて、それに加え留学生の多くが中国人であるため、勉強したものをすぐ使えたり、周りから直接教えてもらえる利点もあるからである。これをきっかけに中国人の留学生たちともっと仲良くなれると思うので目標のために頑張りたいと思う。

また、部活にも充実したてまたその中でコミュニティを作っていくつもりだ。韓国は日本と比べてサークル活動や部活があまり活発ではないため、高校時代に日本のドラマやアニメを見て、そういう集まりに憧れていた。したがって日本留学に来る前から部活に入りたいと考えていた。部活に関しては、1年の時は部活は辛いかもしれないと言う先輩からの助言があったため、部活よりもサークル活動をやりたいと思って、上ヶ原にある写真サークルに入った。2回生の時はスポーツ系のサークルに入りたいと思っているが、しかしまだ特に決めているサークルはない状態だ。

なぜ部活やサークルをやりたい事に入れたのかというと、いろんな人とのコミュニティが作れる大きな機会だと思ったからでもあり、このようなサークル活動によって、4年間の大学生活をより充実したいと考えたからでもある。

4. きっかけと理由

今まで紹介した事は上でも述べているように「コミュニティ」を中心に大学生活をもっと豊かにするた

めに私が考えたものである。それでは、今からは何故私が大学でやりたいことに「コミュニティ」を一番として取り上げたかについて説明する。

一番の理由は私の人見知りな性格を直したいからだ。実は、私は中学の頃からすごく人見知りな性格をもっていて、この性格のせいか、周りに友達はあまり多い方ではなかった。それは高校1年になっても同じで、このままではダメだと思った私は、その時からずっと努力して少しずつ人見知りな性格を直していった。しかしまだ、初めて会う人に目を合わせて話したりすることが苦手だ。これはこれからの就職活動にも影響を与える上に、大きく見たら人生の全般にかけて悪い影響を及ぼす可能性がある。

そのため、これからの留学生活の中でまず、自分の短所であるこの性格を完全に克服したいと思い「コミュニティ」を一番として取り上げた。正直に言うと、ことレポートは将来についてや学びについては、あまり書かれてないかもしれない。しかし、人の性格によって第一印象が変わるという話もあるように、私の一番の問題である人見知りを直していききたいため選んだのである。もちろん大学生活の4年間これが上手く行くかどうかは、自分の努力次第だという点はよく分かっているが、今までよりもっと頑張らなければならないと思う。

5. 本を読んで感じた事

私が選んだ本はコミュニティー通訳入門という本である。私がコミュニティ通訳という本を選んだ理由は、私がやりたい事を見つけてそれを成すためにどうすればいいかを勉強するためだ。また、私は以前から通訳や翻訳の仕事に興味があったが、上で述べたコミュニティというテーマとも内容的に合っていると感じてこの本にしようと思った。

「通訳」や「翻訳」に関する本と言ったら普通、英語の翻訳や通訳の本が多い。しかし、私が選んだ「コミュニティ通訳入門」という本は特に英語に限らずに一般的な「通訳」というテーマをどのように勉強するかについてその概念が書いており、また外国人に対しどれだけ通訳や翻訳などが行われているかについても簡単にまとめた本なので購入した。

まずこの本に書いていた内容を説明すると、まずpart1では「在日外国人が感じる言葉の壁」から始め、「コミュニティ通訳とは何か」、「通訳者の心構え」などが書かれている。またpart2では各分野の通訳が書かれており「司法」、「医療」、「学務」、「行政」などの、私たちが一般的に思う観光分野以外の通訳について書かれていて少し意外だと感じた。

この本を読んでよかったと思ったのは、さきほど述べたように通訳の使い道が観光だけではなく、多くの分野で使われていることを知った事である。また、在日外国人の地域別割合が東京の次に大阪ではなく、愛知県だということを含めて新しい知識を得ることができてすごく有益だと感じた。

コミュニティー通訳入門/大阪教育図書/水野 真木子/2008年

6. 結論

夏休み中にレポートのために読んだ本がきっかけに通訳や翻訳をしてみたいと思うようになった。本を読む前は、ただ通訳や翻訳に関心があっただけで将来の夢ではなかったが、これをきっかけに日本と韓国との簡単な通訳や翻訳の仕事をしてみたい。例えば日本に遊びに来た韓国人の友達を案内しながら通訳をしたり、日本の漫画を翻訳したりアニメに字幕を付けたりするぐらいの簡単な仕事を、もしこれからの大学生活の中で、機会があれば積極的に参加したいと考えた。

これからの留学生活の中、上で述べていたことが必ずできるという保証はない。しかし、少なくとも今からできる事から始めれば、いつか必ずできるようになると信じて4年間の大学生活を送って行きたいと強く思った。

7. 授業への感想

このレポートを最初に書いた時を思い出してみた。私は他の留学生とは違って韓国が受験をして日本に来たため、日本で住んだ経験もなく、なお一人暮らしもしたことがなかった。何もかもが初めてだらけで、私は期待と心配で2つの気持ちを同時に持っていた。それで当時この授業で「大学でやりたい事」というレポートの課題が出されたときは、このレポートでも述べたように自分の性格と円滑な留学生活のために「コミュニティ」というのをテーマとして挙げた。

最初はレポートの書き方から始め内容や文法など、色々欠点だらけのレポートだったろう。しかし、1年間のこの授業を通して少しずつ直して行き、今こうしてレポートの最後の部分を書いている自分を見ると、少しは成長したとを感じる。また、日本語の実力向上や、ほかの留学生の皆さんと交流できたと感じてる。多分この授業のおかげで自分がここまで来れたのだろう。これからまた学科を決め2回生になると思うが、この授業で習ったことを生かし今よりもっと、特に会話のところを上達したい。

最後として一言をを言うと、私にとってこの授業は大学を卒業した後も思い出せるような貴重な時間だった。先生やほかの留学生に感謝する。

やりたいこと

ごせいこう
呉正好

はじめに

大学に入った以来、わたしはこの四年間の大学の生活でどう過ごしたらいいのか、この間しつかり考えてきて、なんとなくわかったと思います。

わたしは自分が大学でやりたいことを日本語を堪能になりたいと皆さんに教えたいですけれども、やはり範囲が広すぎると思いました。だから具体的に絞らないとはっきり自分がなにがやりたいかわからなくなってしまうと思います。

きっかけ

今のわたしはバイト先として、ホテルで働いてますので、しかもわたしは将来日本で就職するつもりなので、具体的にはホテルに勤めたいと思いますが、やはり外国人として、日本語でお客様と交流する上で、心を込めて対応をすることも必要だと思います。だから綺麗な日本語というよりも丁寧な日本語をしゃべらなければ、お客様に対して失礼と思います。もうひとつは、世界でいままで日本のおもてなしは、最高だと思います。日本のホテルでは、いつもお客さまが最優先にして、どんな要求でも自分ができるだけ、お客様に満足してもらえるように応えます。今大学に入ってるから、日本人と交流するチャンスが増えてくるので、せめて本場の日本語を聴くことができます。しかし、それだけではただ相手が伝えた意味がわかるだけで、自分の思うようにはやはり話せないと思います。わたしもできる限り自分が喋ってみて、どんどん覚えていって、完全に覚えるまでに努力します。もうひとつは、書く練習も重要だと思います。たぶんみんなの経験で考えたら、たくさん文章、レポート、宿題など書いたら、その書いた内容を覚えられます。特にホテルみたいなサービスについては、外国人の社員だけでなく、日本人にとっても簡単な仕事ではないと思う。しかも、毎日たくさんあっちこっちからの観光客が旅行しに来て、その一人ひとりへの丁寧な対応も必要です。

私の計画

もしホテルに勤めることに失敗したらどうするなど言う質問が出てきましたから、それについて私はBプランも考えています。それは自分がスポーツ用品の会社を作るという考えです。現在の世界にみんなますます注目されていることは経済ではなく、健康の問題です。スポーツが提供する価値は多種多様で、人々がより豊かで快適な生活をおくるためにスポーツは重要な役割を担っています。体の機能をしっかり失われないように困っているかもしれないと思います。スポーツの価値を活用した商品やサービスを開発し、日常生活にもその価値を積極的に広めていくように、わたしは頑張っています。私が思うのは、会社の経営と管理は一体化にすべきです。スポーツのA

パレルを販売しながら従業員たちに十分な運動をさせるのは必要だと思います。元気な体一番だと思っています。

私と夢

私は映画を見るの好きなので、自分も映画を撮ることもやってみたいと思います。そのために、わたしは二年生になったら、メディア情報学科に入りたい予定と考えています。特にいまの日中関係はみんなが注目している問題ですから、政府のほうかどのような政策でこの問題を解決するか、仲またよくなるか、それは私たち普通の人々とは関係ないと思います。わたしは思うには、両国が仲良くなる方法はやはり、お互いに両国の文化を知らせて、さすがに日本と中国はいつでもつながってるなど思ったら、問題の壁は消えていくはずです。確かに現在のマスコミがますますはってんしているのですが、新聞、ニュース、あるいはネットの情報が正しくないものをいっぱいあるんじゃないですか。そのせいで、自分がどうやって、正しい情報を送って、みんなに伝えるのが難しいと思います。とりあえず、自分がもっと日本のことを知って行って、また日本人に中国の文化、歴史とか紹介してあげると、お互いに理解することができると思います。今まで周りの日本人の友達とか知り合いとか、けっこう中国の文化に興味のある人がおおいですから、まず自分が知っている知識を相手に教えて、またわからないところあれば、調べてから教えます。だから、こういう題材の映画をかなり撮りたいです。

いまは在日留学生が多いですが、みんなも日本に来る前にももちろん偉大な志をもってたとおもいます。逆に一部の人は日本にきた後で何カ月過ぎて行って、前の志向に向かう心が揺れているかもしれません。でもこれは私たちが絶対かよって行く道なので、私たちはやるべきことには努力して困難を克服していこう。

夢を叶ために

前にも私は中国文化を伝送者として、映画を撮って、外国人に中国の歴史を見せたいといいましたので、やはり中国といいましたら、儒学思想を考えるかもしれないので。この夏休みにわたしは儒学に関する本を読んできました。この本では、いろんな作者の文章から昔の古人は様々な教育方針、文化歴史、伝統習慣をいかに伝わってきたのかを述べました。現在の社会から見れば、非常に非効率である一方、その効果と意味を認めされず、社会の中で否定している人も少なくない。しかし、この本では様々な事例を通じでそれらの方式は無駄ではないことを説明しようとしていました。そして、アジアの地域のいろんな国の視点からお互いの違いを比較しながら「知」の伝達に関して読者に述べようとしていました。

この本を読んで、私に最も印象に残ったのは「儒学学習における「身体知」の合意について―「素読」「身体」「言語」を鍵概念として」です。本稿にいて筆者は、前近代日本の教育的営為に主要な視線を投じながら、その教育的意義を吟味・分析するとともに、それを通して近代学知を知的枠組みとして成り立っている近代学校教育のあり方を相対化するための一つの視点を確保することを目指そうとする。その際、前近代の教育的営為を代表

する事例として、特に江戸時代の儒学学習に着眼点を据える。いわゆる儒学知とはどのような「知」としての内実を有するのか、また、学習者がその「知」を獲得することによってどのような学的営為としての合意が認められるのか、などの問題に照明をあてることで、近代学校教育が自明視するそれとは異なる「知」の位相を探ることが期待できるからである。

ところで、儒学学習という表現を通して想起される学びの営為といえ、何よりも「素読」を取り上げねばならないであろう。なぜなら、儒学学習とは、最も象徴的には、まさに「四書五経」に体表される「経書」を読むことに徹する学的営為といえるが、「素読」はその営為にとって必須の起点であり、基盤であったと指摘できるからである。

小さい子供に対していきなり分かりづらい文章や知識を学習させでも、その意味を分かるのは困難であろう。しかし、人は新しいことを学習或いは獲得する為にはまず、記憶に残し、覚えなければいけないのだ。その中で、最も問題となっているのは意味や意義を知らないまま習得することは厳しいのだ。そこで、古人は彼らにまずは「素読」を通して頭ではなく、体で思えさせることである。その後、徐々に意味を解明し、初めて自分の言葉、すなわち自分の物にするのである。それがまさに「素読」から「身体」そして「言語」と繋がっていく方法になったのだ。

中国では「もし、新しい言語を並ぶ予定であれば；10年間言語の知識を勉強する為に授業を受けるより、5年間外国にいてその言語の地域で生活したほうが良い」と言われている。多分、これは昔の方法と同じ原理ではないかと私は思っているのだ。

ここまで書くと何とか自分の夢を叶うのは役に立つと思っています。やはりじゅうがく思想は中国に体表的な思想だと存在しているので、さらに全世界で最も知られる中国のものかもしれませんから、そこから出発点とすると、何になるのか期待しています。

参考文献

アジアにおける「知の伝達」の伝統と系譜 山本正身編；石川透 [ほか] 著. -- 慶應義塾大学言語文化研究所. < BW03631772 >

感想

そろそろこの一年が終わりますけれども、しかも一回生の最後になりますし、この一年間を通して、日本語の授業はすごく楽しかったと思います。たくさんの発表をして、本当に自分の日本語がまだまだと意識しています。やはり発表するたびに緊張しましたが、順調に終わらせていました。自分もすごく成長できたと思います。このレポートここでおしまいしても日本語の勉強が終わるわけではありません。また来年頑張って、積極的に授業で発言し、夢を叶うまで頑張ります。

関学でやりたいこと

邵一帆

はじめに

大学では授業時間は自分に選択できますので、自由な時間がたくさんあります。その時間をどうやって過ごすのか。課題の完成と自分のやりたいことをやります、私はそう思います。

でも、どんなことをやったら、たのしい、よい大学生活をすごせるのでしょうか。入学後、私はよく考えています。大体三つの方面をやります。一つ目は、自分が好きな専門学科に入ることです。二つ目は、たくさんの人を付き合うことです。三つ目は、社会経験を積むことです。

学科選択

まずは学科の選択することです。私は環境問題の解決方法を教える授業がある学科に入りたいです。なぜなら、私のふるさとには有名な布と織物の生産地なので、環境問題がたくさんあります。工場から川に廃水が流れたり、排気の拡散など... この工場は大きい工場ではなく、多数は小さい工場なので、管理は難しいです。高校一年生の時、お祖母さんの家の前の川が急に臭くなりまして、色もへんになりました。なぜそうになったのか、皆さんびっくりしました。最後は、環境局調査したの結果からその原因をもらいました。それは、村隣の工場は不要な廃水がその川に排水しました。でも、最近は変わりました。何年間で治しているから、もう、元のようなきれいな川に変わりました。去年の時、私は両親と友達から故郷の近況を聞きました。今の故郷の環境政策はどんどん厳しくなりまして、工場の管理もそうです。たくさん不法工場は閉めました。故郷は今年から工業都市か旅行都市に変更し始めました。最近はいろいろな公園や遊園地が建てられています。ですけど、環境問題はまたあります。空気と水汚染もまた完全に治しますので、私はこの方面に努力したいです。そのため、私は総合政策学部に入りたい、町の環境を改善する専門的な知識を勉強して、きれい及安全なふるさとを守りたいです。

日本語との努力

二つ目は、人脈を作ることです。関学に入学前、私は日本語学校で日本語を勉強しました。その学校の学生は皆外国人です、世界のいろいろな国からきます。彼らと友達になって国と国違いの文化がわかりました、自分の視野も広くなりました。でも残念ながら、その時、日本人の友達はいませんでした。今、関学に入学して、たくさん日本人の学生がいます。友達になる機会が増えます。なぜ私は日本人の友達がほしいのか、その理由はまず、日本語の勉強、本の中の日本語は普通の日本語だけで、流行語はないからです。次に、今から長い時間日本に住みますから、もし日本人の友達があれば、日本の文化と人々の習慣が友達に教えてもらえることができます。そうしたら、以後の生活はもっと楽しいです。一番大事なことは日本語のコミュニケーション能力を練習する

ことです。

社会との事前勉強

三つ目は、社会経験を積むことです、大学は社会人になる前の最後のところなので、私は学生の考え方から大人の考え方に変えていかなければならないと思います。そのため、私は関学にある、いろいろな社会実践活動に参加します。一年、二年生の時は大学生活の慣れると勉強を努力します。三年生からボランティア活動とか、キャリア活動などに参加して、社会的な知識を身につけます。学校に勉強られない知識と社会の常識を勉強します。そうすれば、卒業後すぐに社会生活を入れます。

まとめ

以上いろいろなことが書いてあります。簡単に言うと、私の目標は一つ総合政策学部に入って、環境保護の知識を勉強して、ふるさとを建設することです。二つは、人間関係をよく作れることです。総合的な人材になりたいです。そして私はこの二つの方面に努力したいです。なぜなら、将来、仕事する時、単に専門の知識があるまま、仕事は良くできませんと思います。皆に説得力がある人になったら仕事は良くできます。

もちろん、大学生活の中では、他のこともやりたいです。あそびなどのリラックスする時間は必要です。休みの時、私は旅行したいです。サッカーとバスケットボールが好きから、私は好きなチームのグラウンドに試合を見たいです。New York とスペインは特にいきたいです。

私の思いは、大学生活には、二つの方面を分けて過ごしたらいいです。なぜなら、現在の世界は多様化の人材が求めますから、勉強だけ上手の人ではなく、コミュニケーション能力も上達の人ほがいかもしれません。

大学生活はまだまだそれからなので、一年生、二年生、三年生、四年生、その四年間に必ず他のやりたいことが出てきます、ですから、私は「まずやってみよう。」この理念を持って、たくさんのかことをやってみます。

レビュー：日本の風景・西欧の景観

夏休みの時、私は「日本の風景・西欧の景観—そして造景時代」という名前の本を読みました。フランスのオギュスタン・ベルクが書いて、篠田勝英（しのだ かつひで）編訳の本です。私は建築に興味があるからこの本を選びました。

この本は風景についていろいろなことを書いてあります。まずは風景の観念を明確しました、「風景という観念は文化的アイデンティティと密接に結びついているので、文化によって様々に変化する。」p16 その言葉が書いてあります。

本の中でもさまざまな例を挙げています、特に絶対的なものとして対立させられるの日本庭園とフランス式庭園であります。それから、すべての文化とすべての時代に共通の基本的な特徴ということがあります。その意見を出した。

「元風景」という言葉が運用した。「元風景とは、人間とその環境の間に必然的に存在する視覚的な関係である。」「われわれが視覚するままの現実においては、あらゆる人間に共通の元風景と区別されない。」(p17) 以上に言葉を運用して、元風景の意味を説明しながら、筆者の主張も説明しました。

風景というのは、その人の文化によって見方が変わるものであり、風景を肯定的に否定的にも観賞・評価するし、またそればかりではなく、風景の側面のいくつかを知覚したり、あるいはしなかったりもします。つまり誰にでも同じ見え方をしていると思ったら間違いだということです。

風景を知覚するときには、つねに想像力の世界が介入してくることになります。風景という観念は文化的アイデンティティと密接に結びついているので、文化によって様々に変化します、主体と客体対象の関係の現実においては、主観的な物は必然的に客観的な物と合成され、主体と客体という近代の二分法が有効性を失うのであります。

ちなみに、風景という観念は、ヨーロッパでは16世紀になってようやく現れます。風景を意味する言葉は古代ギリシャ語にもラテン語にも存在しないです。風景という価値観もないです。

近代になって、主体は自分自身と事物の間に区別を設けます。「環境」をありのままのものとして、客体として発見します。つまり自分は自分、環境は環境と、完全に別個のものとして分けました。環境が完全に別のものだとすれば、誰にとっても風景は同じものだと言えます。

それを説明した後、筆者は造景の時代を推想しました。造景の時代への移行は必ずしも風景美の時代への移行を意味しません。けれども、環境をイメージとして生きることは、必然的に美的な配慮を、すなわち美を創りだそうとする真摯な欲求を伴います。環境を造景すること、原則としてこれは現実に粉飾を施すことではなく、芸術作品の創造なのであります。近代になって、主体は自分自身と事物の間に区別を設ける。「環境」をありのままのものとして、客体として発見します。

そのことは今もう実現しました。現在の建物は単に実用ではない、芸術作品の方面に建てるのは多いです。

【日本の風景・西欧の景観　そして造景の時代】オギュスタン・ベルク　篠田勝英＝訳　講談社現代新書

授業との感想

大学に入って、もすぐ一年なんです。この一年中、日本語の授業にいろいろなことが勉強しました。特に、文章の書くことです。この一年中、文章を何回目に治して、自分の書く能力が増やしました。または、自分の目標を深くに了解することです。

もちろん、二学期の授業を受けまして、いろいろな感想があります。月曜日の日本語授業はどうやって日本語のレポートを書くのか、この知識を勉強しました。でも毎週は同じ内容をやりますので、この授業の参加したいの気持ちは強くないと思います。木曜日の授業は私にとって読む力と発表する能力が進歩しました。この二つの日本語授業を勉強して、私の日本語はよくなりました。

自分を鍛え、世界人材の道へ

上官欣欣

1. 読書のきっかけ

「必然」という本による、未来はホロスの世界である。ホロスというのは人間、コンピュータ、スマートフォン、智能設備、各種センサーをネットワークでつながる世界である。今の時代はそのホロスの世界の始まりだとケビンケリーが書いていた。ケビンケリーは預言者でなく、世界著名な科学技術雑誌主編、そして” “ネット文化” の発言者と観察者だ。彼は人間がどうやって科学技術を利用してもっと幸せな生活できるのかを考えている。科学技術は「” 暖かさに満ち、人間性と自由的な進化段階”。」というものだ。現在、科学技術に恵まれた産物がますます増えていく。例えば、Uber タクシー会社は世界上で最大のタクシー会社であるにもかかわらず、一台のタクシーも持たない。アリババは最も価値がある小売会社であるが、在庫がない。そして、Airbnb では、短い間で借りサプライヤーとして、が、いかなる不動産もない。VR リース店で自分が欲しいものを自由に選べるとともに不利な状況も避ける。クリーニング、修理、ストレージ、分類、等々責任を負わない。だからこそ、使用权は所有権より、経済的に優位性を持っている。そして、使用モードで消費者と生産者の良い関係を築くことができる。なぜかと言うと、ソフトの使用权だけがあったら生産者と一緒に進歩して、ソフトのミスを伝えたり、技術問題をフォーラムで尋ねたりすることで、サービスの交流を強く深めていける。インターネット技術は科学技術の一環として、未来の主流となるかもしれない。まずは大学時代で基本的なコンピュータ操作を身につけておく。

2. 目標

私はもともと一人きりが好きで団体活動が苦手な人だ。日本に来て友達に誘われた活動を参加したことはほとんどない。だが、情報高速化の時代にあつて、人間関係ネットワークは進歩を遂げ、成功につながる鍵と言っても過言ではない。この鍵を握るため、大学の組織活動やボランティア活動などは一つ方法として自分の協力能力や突発事件の処理能力を鍛える場となる。みんなはすべて異なるから、他の人と交際しているうちに自分が他の人により不足しているところを見つけて、他人の優秀な “ソフト “を学ぶことができる。しかし、

もっと優秀な人と接し、順調に交流できるためには、自分の”ソフト”（内在の品質、能力、知識など）も向上させるべきだと思う。私は大学コースの中で、ドイツ語とフランス語を選択した。学校の世界市民を育成する理念に従うと、その中に言語能力は欠かせない。言語は長い歴史の流れに伝承される産物、国の文化を代表しているエキスだと思う。だからこそ、他国の人々とコミュニケーションすると同時に異文化の理解を深めることができ、グローバルな視野も形成できる。秋学期の初めに、日本人友達が誘った活動に参加した。大阪城で江戸時代の知識に関するクイズ活動をして、楽しい一日を過ごした。そのイベントがきっかけで、他国の人々を交流することはいかに面白いか感じた。自分是他の人とのコミュニケーションが意外に好きなんだ。だからこそ、次は二年生の時国際政策学科を選ぶ。国際政策学科で幅広い知識と触れ合い、政治、経済などの視点から問題を解決する能力の習得を目指している。そして、他の人との知識共有によって、いろいろ勉強になれる。何しろ、今は共有の時代だ。共有といえば、資源共有、利益共有といった言葉を浮上した。GoogleのAPIは（80言語以上に対応し、どんなアプリケーションからでもリアルタイムストリーミングあるいはバッチモードで利用可能で、アプリケーションが「見る、聞く、翻訳する」）デジタルビジネスに取り組む企業にとって、様々な企業がAPIを公開することで、他の企業のサービスやリソースを組み込んだ新たなサービスを生み出せる。APIによると、世界企業の資源共有の見込みを考えられる。経済の発展には協力、共有が欠かせない。協力があればこそ、支持があるわけだ。

3. 自分なりの世界人材

大学で自分を鍛え、世界に通用する人材になれるため、いろんな壁を乗り越えなければならない。だが、世界的な人材とは一体どんな人材を指しているのだろう。人によって、定義も様々なはずだが、むしろ人々の追求が違ってもいい。時代の変化スピードが速いこそ、その変化している時代の中で、従うと同時に、自分がやりたいことを探すべきだ。私にとって、言語能力、コミュニケーション能力、新しい環境でも成果を出すことができる当時情報処理能力のほか、情熱的な態度、親しみやすい性格なども重要だと思う。人々の外見や性格という“ハード”は変わりにくいだが、できることからやりたいことが実現できるまでの“ソフト”を高めることができるはずだ。しかし、実感のない目標はどうやって自分の技能に転化することができるのか。言語能力の鍛錬は

現在の段階で、学校内と学校外のイベントに参加することしかないみたいだが、ある科目の先生は授業中で学生に質問をして、発言させるという形式が増えてきている。それも学習の機会だと思う。そして、SBE(Skills Basic English)も勉強している。いろんなことを経験することで、一番成長できると考えられる。学校は発展途上国へのボランティア活動を提供しているし、海外短期交換留学もある。新しい環境での鍛え機会となり、そして、新しい自分になれるかもしれない。世界人材になれる道で、逆境であってもスティーブ・ホーキング博士のような、逆境力に変えて新しい自分にもなれるチャンスと認めて、一步一步しっかり歩くんで行くべきだ。

4. まとめ

一年生の授業は、後2ヶ月にすぎない。今まで、自分の目標を実現するための努力は、何の成果をもたらしたのか。もし、入学する時の自分と比べて、何も変化がないなら、方向にずれているのか、努力が足りないのか、それとも今の方法が間違えたのか、もう一度考え直す必要がある。私は、言語能力を高めるため、春学期の時、ドイツ語とフランス語の授業をとったが、一番興味がある言語は英語なんだ。日本人学生のようなEC授業を取る余裕がなくて、抽選科目(SBE)をとったわけだ。学外の勉強時間を最大的に利用していないとわかっていて。今後、科目の復習を重視して、本の読む時間を作って、頑張りたいと思う。

5. 感想

日本語授業を通して、いろいろ勉強になりました。日本語授業のおかげで、レポートを書くことはそんなに嫌でなく、かえてレポートはあるの方が自分に良いと思います。そして、日本語の弱いところを見つけるようになりました。例えば、本文の構成能力、言葉の使い方、説得力、論理性などの欠如です。みんなと交流している時、言葉の量が足りない点を感じました。言い出したい言葉が思い出せずに、末に伝えようとする気持ちが相手に伝えられなかったです。

大学で英会話力を身に付けよう

スウ ウテイ

1. はじめに

私は大学でいろいろなことを身につけたいと考えています。2014年12月に産経新聞に掲載された記事『英語』は本当に必要なのか 大学関係者から漏れる『英語不要論』は、教育関係者や親の間で波紋を拓げました。大学で英語ができなくなっても大丈夫だと聞きました。入学試験を受ける時も英語を使っていません。しかし、本当に要らないのでしょうか？

2. きっかけ

以前名古屋駅で、外国人の観光客から話かけられ、相手は英語で話して、私は意味が分かりましたが、長い間全然英語を勉強していないから、言いたいことをきちんと英語で話せませんでした。また、私は日本の映画やドラマだけ好きではなく、アメリカのも好きです。例えば「Supernatural」、「The Lord of the Rings」とか、もしある程度の英語ができれば、字幕がなくでも、英語の映画やドラマを見られます。現在中国の翻訳団体はほとんど専門の人たちではなく、翻訳に興味がある人が翻訳しています、だからたまに訳者が自分の考えを入れたり、専門の単語を間違っして訳したりします。ですからやはり字幕を見るより、自分の力で見るといいと思います。何故かというとなん一人一人の成長環境や文化背景に対する理解は少なくとも違うと思います、だから同じ文章や話に関する理解も全く一緒にならないはずで。例えば、日本語を英語に訳して、また韓国語に訳して、最後に中国語に訳したら、この話はもう最初の日本語の意味と全然違う話になります。信じられないかもしれないですけど、これは本当にあったことです。

3. 英語の重要性

勉強や生活の中に英語が話せない海外旅行も難しいし、外国人教師との交流も大変、卒業論文の参考文献も日本語に限られてしましますが、グローバル社会においては英語力もかなり大切です。今「コミュニケーション総論」の授業を受けています。外国人教師の授業ですが、とても簡単な英語で十分ゆっくりのペースで授業をしてくれているけど、それでもなかなか難しい単語が理解できない場合が多いです。また「プログラミング基礎」の授業中、コンピューターの基本言語も、インターネットの共通言語も英語だと分かりました。学術的にも、影響力のある論文は英語で発表されていて、世界中の最先端の情報もほぼ全て英語で配信されています。だから英語を勉強するのは大切だと思います。

「今後は翻訳ソフトの発達で語学力が不要になる」という話もよく耳にします。確かにインターネット上やスマートフォンで提供される翻訳ソフトは発達していますが、でも翻訳ソフトでは限界があります。必要なのはコミュニケーション能力です。翻訳ソフトの発達を否定するつもりはありません。しかし翻訳ソフトがいくら発達しても、想いを完璧に理解できるようにはならないと思います。グローバル社会の中で英語を上手く使えるようになることはまず損がありません。言語学では英語は安全な言語で、英語を母語として使うところだけでなく、それ以外にもいろいろなところで使えます。そのため、英語がいくらできても、出来過ぎるということはありません。将来就職する時、企業選びでも選択の幅を広げてくれます。

4. 努力の方向

中国にいた時、小学校から中学校まで英語を勉強しましたが、日本語を勉強し始めたところ、英語をだんだん忘れてしまいました。関学の総合政策学部には、言語に関する科目いっぱいあります。教員も充実していて、私にとっていいチャンスだと思います。今は日本語を勉強しながら、英語ももう一度勉強し始めたいと考えています。また、心理学、自然環境にも関心があるので、心理学概論、自然環境論の講義でそれに関する知識も学びたいです。

心理学や自然に関する試験の記録も英語の方が多い、だから専門的なビデオと研究素材を見るために、英語も不可欠です。また関学のボランティアのサークルも活躍に活動しています。もしチャンスがあれば、英語、自然、心理などいろんな知識を身につけ、私も一度ボランティアをしてみたいと考えています。

5. 「僕のいた時間」のレビュー:

最初三つの本を用意しましたが、この三冊とも私を励ましてくれる本だと考えて、最後に「僕のいた時間」を選びました。何故かという、「佐賀のがばいばあちゃん」はちょっと古いと思ったから、「世界から猫が消えたなら」の同名映画を見ましたから、本を読む意欲があまり強くなかったからでした。

「僕のいた時間」の主人公拓人さんは筋肉が衰えていて、体がどんどん動かなくなって、呼吸ができなくなり最終的には人工呼吸器をつけないと死んでしまう病気になっていて、このALSという難病と闘う姿を描いたものです。

大学卒業したばかりの拓人は就職の時何回も失敗しましたが、最後の面接にやっと自分の心声を言い出しました。「僕が学生時代に学んだことはキャラクターを演じることです。小学校、中学校では教室で浮かないよう、はじかれないように演じて、家では親の期待に応える子を演じました。親の期待に応えられなくなった高校のころには家でも学校でもちゃらちゃらしたキャラクターを演じるようになりました。まあ、意外とそれを受け入れられて、「拓人はああいうやつだから」って、認めてもらえるようになりました。大学に入って、だいぶ演じることから解放されましたが、就職活動が始まったら、また、演じなくちゃいけないくて。面接の練習をして、鏡の前で何度も何度も練習して、面接で初めて会った人に数分で判断されて、「不採用」っていうはんこ押されて、全否定された気分になって。それが50回も80回も100回も続いたら、何のために生きているか分からなくなって、生きているのがバカらしくなるのだらうなって。」と言われました。でも彼はそこで、この最後に面接した会社に採用されました。

自分として一番やりたい仕事ではないですけど、拓人さんは毎日頑張って仕事をしています。ある日に自分の体がおかしくなっている事を感じて、病院へ行って検査をして、ALSに診断されました、医者さんが「ALSが進行して、たとえ体が動かなくなったとしても、一人一人の生き様は違います。皆さん、自分の人生を生きていらっしゃいます。」と慰めました。でも拓人は「それで生きているっていえるのですか！」と言って、怒りました。

生活はまだ続けています、病気は彼のたくさんモノを奪われ、だから彼は今できる事に目を向けるようになった。例えば車いすに乗ってサッカーをすとか、会社へ行けなくなって、家でデザインをする事を目標として頑張りました。

病気が彼に与えたのは、苦しみと絶望だけではない。目標を見つけては失うことの繰り返しを続けていても、ただ何かをやりたいという気持ちだけは、病気に奪われない。将来すべての目標を奪われたとしても、彼が目標に向かって生きたという事実も奪われないのです。

主人公は病気になる前は人生の生き甲斐がなく、漠然と毎日を過ごしました。私も含め、現在の若者はこのように毎日だらだら過ごす人が多く、人生はまだ長いという考えを持って、どんなことも後に回しても構わないと考えています。しかしこの本を読むと、このような主人公さえ自分のやりたい事に向かって頑張って生きることができるようだから、私たち健康な人も有意義な人生を送るために、現在を把握して、この大学でやりたい事をやって、目標を叶えるべきです。

6. まとめ

私のやりたい事は英語を勉強する事で、まず簡単にできる目標を決めて、やっていくべきと考えます。今も毎日単語をいくつか空いている時間に暗記するとか、聴解力と発音を鍛えるために英語のドラマを見ながら、シャドーイングをします。そうしたら英会話能力も上がっていくでしょう。

まず簡単な会話能力を身に付けておけば、もしチャンスがあれば海外でボランティア活動する時、英会話も役に立ちます。語彙と文法が強くなったら英語の文献とレポートも読めるようになって、他の勉強にも英語が役立つかも知れません。従って今のところはきちんと自分が出来る事をやりましょう。拓人さん見たい、自分も目標を一つ一つ実現することは自分の人生を充実させると思っています。

「ノベライズ 僕のいた時間」 ，扶桑社，2014/3/20，橋部 敦子（脚本）（著）木俣 冬（ノベライズ）（著）

7. 授業についての感想

この一年間の日本語勉強において、正しい文章の書き方や、どうすれば内容を充実になるかを勉強しました。書き直す途中も皆さん貴重の意見をもらって、改めて考えて、どんどん直してきました。自分のレポートを何回も書き直して、今の最終レポートになりました。このぐらい長い文章を書けることはこの前全然考えなかったもので、自分も驚きました。これからもここで勉強した知識を活用して、他の授業に使って生きたいと考えます。

建築の道へ

文双定

はじめに

高校の夏休みに、自動車運転免許を取るため、瀋陽の郊外にある教習所に通った。その教習所に通うとき見え町立派な新築マンションと贅沢な別荘ばかりが並んでいた。道路も都市部よりずいぶん広い。ちょうどその時期に家族は自分のために、新しい住宅を購入するつもり時期だ。しかし、走っているのは、自動車学校の車やトラックしかない。それらマンションや別荘には、だれも住んでおらず、最初は分譲前だと思っていた。しかし、私がこの運転免許を取る半年の間に、結局マンションの工事は全く進まなかった。周りの人に聞いた後、それらのマンションの売価が高い上に、近くに学校や病院やスーパーもないので、そのマンションを買う人がいなく、最後デベロッパーの資金のやりくりがつかなくなり、企業が破産したという実情がわかった。最後に家族はそのマンションも買わなかった。これがきっかけで、都市計画、都市づくりに興味を持つようになった。

都市背景と問題点

次に、中国で都市に関する背景を紹介したいと思う。1978年に中国の「改革開放」という政策を実施し、経済がだんだん発展してきた。近年、母国は経済発展が一番早い国になったが、経済発展の中で占有率が一番多いのは不動産経済だ。2008年からGDPの中で41%からますます増加し、2010年に47%を占めていた。

その不動産経済が今まで行われてきた原因は、2008年リーマン・ショックが発生した後、中央政府が中国経済を挽回するため都市化の建設という政策を提出したことである。その政策にしたがって、地方政府が地方財政や個人の業績を増やすために、土地を不規則に選択して、高価にデベロッパーに売って、人が少ない都市や郊外にたくさんのマンション群や大学城や工場園を作ったのだ。

その結果としては今中国でゴーストタウン現象が多くなった。地方政府がただ理論的にGDPをあげて、経済を伸ばす小細工をした。役人の人々は功績をあげるため、わざとウソのデータを提出した。これは都市に対して、市民に対して、国に対して無責任な行為だと

考えられる。結局、2015年に不動産経済のバブルが崩壊した。中国の経済増加率が低くなった。

自分の提言

このような問題をなくすためには、地方政府が自分の間違っていることを認識し、地方の産業を見つけ、その住む人がいないマンションの周りに学校や病院や飲食産業を設立し、都市と都市の連協発展政策を打ち出すことが必要だ。また、中央政府が監督方面にもっと力を入れ、違法役人に対する処罰も厳しくすることが重要だと思う。さらに、母国での役員が賄賂を受ける事件の新聞が出てくる。そのため、役人たちの貯金や通帳の明細などの基本情報が調査できる機能があるべきだ。そして、政府の情報がもっと透明化し、国民が情報の怪しいところや役人の違法を告発する機関の存在も不可欠だと思うられる。

努力していること

現在には主に建築関係の知識を中心として、力を入れている。秋学期から設計製図演習、都市政策入門の授業を履修している。設計製図の授業では建築製図の線の練習と建築模型の作りを練習したが、ほとんどの課題はスケッチすることだ。スケッチの課題は人物肖像、植物、建物を30枚ずつ書くことだ。子供時代から絵を描くことが苦手なので、スケッチの課題をうまく進んでいくため、インターネットでのスケッチの骨を調べ、絵が上手の友達に尋ねた。また、建築スケッチの書き方の本を読んで、徐々に上手に書くようになった。

都市政策入門の授業では、現代都市におけるヒートアイランドや交通渋滞など都市問題を紹介した。このような問題をどのように解決したらいいのか、毎回の授業で自分の考えを小レポートに書き、提出した。このようなプロセスは将来に建築関係の仕事をやることにとって大事だと思う。知識を勉強し、技術や能力を身につけるのは簡単だけど、幅広い知識を活用することが難しい。ある先輩がこういう話をいらっしゃった。自分がまだ知識不足のうちに、できるだけたくさんの建物の建築設計や組織設計や地域計画などを接触した方がいいとコメントした。なぜなら、この時期では知識に拘束されてなく、自分の発想を広げることができるからだ。

もちろん、授業以外の時間でも建築に工夫している。毎日学校に

通う電車の中で、建築スケッチや建築計画基礎などの本を読んでいた。内容はあまり難しいけど、たくさんのいい情報や知識を詰まっている。また、暇のときに建築設計が美しい建物に観賞する。見るだけではなく、写真を撮り、後にスケッチする。絵が苦手な人に対し、重複な練習が不可欠だと思う。

将来へのつながり

将来の進路については、まず、卒業した後何年間か日本の建築関係の企業で働きたいと思う。学んだ知識を生かすことは難しいため、経験を積むプロセスが貴重なものである。そして、母国に帰り、公務員試験を受け、都市計画局に務めたいと思う。具体的な事業というと、例えば、もうマンション群を建てたけど、全然使っていない所へ行き、それらのマンションをすべて使えるように政策を努力する。

まとめ

2年生の時に都市政策学科に入り、建築設計や都市のづくりや都市再生論の学び、将来都市問題を解決できる人になりたい。建築の道がまだ分からずことが数多くだが、現在においては、知識の学びしかないだろう。

本に関するレビュー

本を選ぶ理由

三冊の本の中で、一番読みたいのは「建築から都市を、都市から建築を考える」である。なぜこの本を選んだのだろうか？どんな豊かな知識を習得しても、どんな素敵な技ができて、正確な思想と優れた人格を持たなければ、実際には意味がないのではないだろうか。すなわち、どんなことをやる前にも、自分の考えが大事だと思う。つまり、この本は自分にとって思想教育の本だと思う。

本の主体

まず、本の形式としては、榎文彦（まき ふみひこ）さんと松隈洋（まつくまひろし）さんが対話の形式として記録されている。松隈さんが聞き手である。本の内容が大体三つの部分を分けられていると思う。一つ目は日本の建築史で最も偉い人物（前川 国男さんや丹下 健三さん）を紹介し、榎さんが東大の建築学科を卒業し、アメリカに留学し、大手設計事務所に勤めていた。また帰国し、1965年に自分の事務所を設立したことである。二つ目は榎さんが東京や日本の建築と都市について自分の考えを述べている。三つ目は榎さんが将来の建築と都市の関係や建築と都市の発想について自分の考えを話している。

本の中で気になる話

本の中で榎さんが建築に対する基本的な考えとして、モニュメンタルな、非日常的な空間ではなく、日常の生活そのものを支えている空間である視点を考えている。私もこの考えを賛成である。確かに、もしも住民に対し、まったく使わない建物を完成したら、資源や資金の無駄使いののではないか？例えば、中小都市で一つの空港があれば十分なのに、さらに二つ目の空港を造ったら、空港の意味が薄くなるだろう。

また、本の中で、「家は小さな都市、都市は大きな家なのである。」と述べている。なぜかとうい、都市は一つ一つの小さな家の組み合わせで成り立つものである。さらに、責任感を持ちながら、家を建てるのは都市づくりに対し、責任感があると思う。したがって、都市を計画するときに、必ずこの都市に対して有意義な建築を建てるべきなのではないだろうか。

結論

現代社会の経済発展の中では、建築の発展いわゆる都市の発展は不可欠だと思われる。よい都市計画が実行すれば、小さな町から小都市になり、小都市から中小都市になり、中小都市から大都市になる。また、大都市と大都市の間の連携政策を打ち出し、超大都市圏になる可能性もある。したがって、建築というのは、建物を建てるだけでなく、建物の建てるにより人が集まり、企業が投資し、社会の資金のやりくりの重要な一環として、社会の発展を推進している。

1. 榎 文彦. 建築から都市を、都市から建築を考える. 東京 : 岩波書店, 2015.

授業への感想

まず、授業の全体としては、いいと思います。自分が書いた文章を発表して、周りの意見を聞いて、また訂正することが大事だと思います。ずっと自分だけの思いで文章を書くより、このやり方はもっと多角的な意見を聞き取り、一方で、周りとのコミュニケーション能力を高めることもできます。

さらに、自分の文章に対して、内容の不足点は自分が見当てるのが難しいため、他人の批判的考えをもらうことが不可欠だと思います。

だから、この授業のやり方と進行が続けていきたいと思います。

コミュニケーション能力を培う

雍 林希

1、コミュニケーション能力の重要性

現代社会において、様々な社会現象が起きている。いわば世界がまるで溶鉱炉のようです。多くの文化を混ぜて、新しい文化を生み出すことです。ただし、社会が時代と共に一緒に変わる時、私も変わらなければならない、社会と一緒に成長していきます。では、見たことがない物事と触れ合う時、何が必要ですか？私はコミュニケーション能力だと思います。

2、コミュニケーションとは

コミュニケーションという言葉を知ったら、何が浮かぶでしょうか。コミュニケーションとは情報を伝達だけではありません、自分の気持ちを含めて、相手に伝えることだと考えます。そして、柔軟な言葉で状況説明し、共通認識を至るまでコントロールします。大学に入学後は大切なことは友達を作ることはもちろんですけど。それより最も重要な事は必要な情報を受け入れて、自ら見て考え、判断し、それを自分なりの言葉で表現することです。つまり、コミュニケーション能力が不可欠だと思います。私は大学でコミュニケーション能力を養いたいです。

3、コミュニケーション力を身に付けたいきっかけ

私は中国の四川省に生まれて、10歳頃父の転職の原因で北京に移住することになりました。転校のため、知らない環境で勉強する

のは大変でした。そして、標準語を喋れない私にとって、周りのクラスメイトと上手くコミュニケーションを取れませんでした。その故に勉強の意欲を下がりました。

高校に迎え、新しい学生生活になりました。高校のキャンパスは都心部にあります。毎日の通学時間は約一時間半前後で。渋滞する日は二時間までかかります。冬になって、車内は暖房がないので非常に寒くなります。そんな通学生活は大変ですけど、楽しかったです。職業高校なので、高校の基礎知識だけではなく、会社に入る前に実用的な知識を学びました。例えば、コンピューターの使用法、職業教育とマナー、企業管理などを学びました。在学中、一年間に春と秋二回、政府機関と企業にインターシッププログラムに参加できることがあって、他の高校生より、先に職場のライフスタイルを感じました。企業に入って、多くの自分が知らない知識に触れて、円滑にコントロールする力が不可欠を感じました。いい仕事を完成させるためには自分の仕事をできるスキルがあるだけでは不足です。他人とコミュニケーションしながら、多面できに問題を分析します。

このような経験があったこそ、将来、私は社会の中で働く際、多くの人々とコミュニケーションを取る時、適切な情報を手に入れることができると思います。将来日本で就職したいから、日本語をツールとして、日本人と関わる仕事に就きたいです。大学四年の内、日本語が上手に話せるようになるのはもちろん、上手にコミュニケ

ーションできるようにすることを目指します。夏休みの間、語学は日本の漢字から始め、来年の夏休みの時、漢検2級を取るよう日々努力しています。

現在は、ユニクロでアルバイトしていますが、ご客対応する時、うまく伝えないときがあります。聞き間違えて、より良いサービスが提供できなくなります。ですから、私はここから乗り越えたいです。分からない事があつたら、すぐ近くにいるスタッフに伺う。そして、自分の反応能力は非常に低いと思いますので。何があつたら、一瞬体が動かなくなってしまう。そこも大学時代に、直していききたいところです。

4、コミュニケーションを活かす

二年次から国際政策学科に入りたい。2020年の東京オリンピックの開催をきっかけとして、多くの外国人が日本に来ることになり、外国人のお客様との付き合うことが多くなるので、国際的な視野を持った方がいいと思う。でも、国際政策学科は難しく、入りにくい学科と聞いた。国際情報など幅が広くて、暗記することも多い。今後、情報化社会で、冷静的に分析し、判断するために、いろんな知識を勉強すべきだ。

入学する前に先輩から三年次ゼミに入ることを聞いた。私は多文化共生に興味があり、グローバル化された世界で、各国の人々とコミュニケーションする時、文化の理解が必要だ。だから、私は多

文化を研究している先生に学びたい。日本人と他の国々とコミュニケーションする能力を身に付けたい。

大学にいるうちに、多文化間の共通点を挙げ、問題を分析する。言葉、習慣や歴史などの基礎知識をマスターする。週末など、美術館に行って、各国の文化と日本の文化に触れ合う。美術館は安静な空間なので、自ら考えることができる。私は大学で自ら考え、発見し、多くの人々に伝えるようになるように努力する。以上は、私が大学で力を努力して手に入れたスキルである。今年二十二歳の私は、ほかの若い日本人大学生と比べいて、年齢から見ると、勝つところがなかった。経歴から、活かしたいと思う。

1、「教養としての経済学生き抜く力を培うために」 2013年
2月25日 初版第1発行 編者：一橋大学経済学部 出版社：有斐閣

2、「本当に頭がよくなる1分間ノート術」2014年7月2日
石井貴士 SBクリエイティブ株式会社

3、「多文化世界」2003年6月20日 第1発行 青木保（あ
おきたもつ）岩波書店

「多文化世界」

青木 保（あおき たもつ）は1938年10月30日に東京生まれ、
1962年上智大学文学部独文科卒業。

1964年東京大学教養学部卒業。

1967年同大大学院文化人類学専修修士課程修了。

日本の文化人類学者、元文化庁長官。

大阪大学名誉教授、国立新美術館館長。

多文化世界を書いた背景はアメリカ911テロ事件以後でした。21世紀を迎えた後、イデオロギー対立、宗教問題、民族問題が深刻になりました。そして、グローバル化を伴う画一的になっている現状。

多文化世界は異文化理解の後、改めて“文化の力”の重要性を述べました。本書の中に異文化理解を尊重から、多文化世界を保護します。自分から他人へを前提として、地元文化の独特の魅力を追求することを唱えました。多文化世界を守り、文化の多元性をやり続けて、イデオロギー対立と国家間の文化摩擦を減らせます。そして、お互い間の誤解を解消されて、共に世界の多角的な発展と平和を促進します。

この本読んで、以前と比べると中東情勢は複雑になりました。2015年以来ヨーロッパは難民、移民問題に取り囲まれています。テロ攻撃をされた国々は消極的な姿勢を貫き、自国の国家安全を掲げてナショナリズム主義的に押し移っています。移民たちの偽造パスポートが出回る中、各国国境を沿って、一人一人の正確に精査することは不可能であり、入り込んだテロリストを識別、また防ぐ対策は難しい状況となっています。それでムスリム移民たちが支配

し、政府もコントロールできない地域「NOGOZONE」に集まり、犯罪やテロ「育ち」をして国の安全を脅かしています。

「宗教」はイスラム主義のテロ事件を庇うことはただの口実として悪用されています。結果としてはイスラム教のイメージが迫害されつつ、ムスリムは世界中で差別されてしまうことが多くなりました。私は ISIS の行為は一体自己防衛のか、それとも世界をイスラム化させたいのかに興味を持ちました。私は ISIS の崛起は決して一つの原因ではなく、複数の面で事件に影響したと思います。文化摩擦はニュースで検討するものだけではなく、実際に我々の周囲で起こりうることであるため、危機感を持つ必要があります。そして異文化、異宗教を信仰している人のイデオロギーをどう対応すべきか。社会問題の背景や本質を知るために、専門的な知識をより深く学びたくなりました。

充実大学生活のため

李拯宇

初めに

大学に入ったら高校より自管理出来るの時間がたくさん増えます。大学生活を無駄にしないようにあるいは時間を過ごしながら自分は一体何をやりたいとかそしてどのような問題が出ると解決しなければならないかとかという問題に少し気づいた。本当に落ち着いて考えみて今思う限りでやりたい事と考えないといけないの事をまとめていうと三つありました。

やりたい事

まず一つ目は英語を上手になる事です、実は日本語学校にいた時はクラスメイトが様々な国からきていたので、彼らが英語を話す時僕も一緒に喋りたいけど僕の英語はそんなに上手ではないのであまりできなかった。これは見えない壁みたいです。だから大学で時間があったら英語の授業を受けるとか、英文系の友達を作ってもこの壁を乗り越えたいです。特にアジアの中国や韓国や日本で、もし英語が得意な人はみんなの視線を集める事が出来ます、みんなは驚いた表情を出てきます、英語が出来る人満足感が得られます、そして英語は世界のどこでも使えるので、英語が苦手な人よりは自分の自由や可能性が広がれると思います、特に現在グローバル化のしたで、英語上手な人は世界どこまでも行けます、こんな魅了な事は考えでも楽しみにします。だから英語はスキルのように身につけたいです。

二つ目はサークルに入る事です、私は小学校の時からサッカーが好きになりました、ただ中国のサッカーがみんなに対してそんなに印象悪いでも僕はサッカーが好きという事には影響がないです。特に私に対してサッカーチームの好きかどうかあるいはこの選手の好きかどうかではなくてサッカーをする時自分の状態が大好きです、汗を流して走ってメンバーと一緒に配合して得点した後の達成感がほしです。サッカーをする時の自分が最も楽しいという理由一つだけでも十分だと思います。だからサッカーサークルに入りたいです。今の時点ならちょっと無理かもしれませんが、三、四年生の時暇な時間がたくさん増えるならサークルに入ります。

学科決める

三つ目は二年生の時学科に入ることです、今はメディア学科と都市政策学科にどちら方が自分と合うのがなかなか決められないです。都市政策学科の場合に入って一級建築士の受験資格を取れるです。なぜなら、建築の授業で美術がよく使うそしてこの中で共通のところもたくさんあると思いますでも最も重要な原因は僕は絵を描く事も好きです。でもただの趣味あるだけではないです、絵を描く事を学んでいる時自分の人生が変わったとも言えます、実は中国の高校で理系と文系以外芸術の専門を勉強する学生は普通に成績も悪い人柄も悪いと思われる、僕はそれを否認しないです、なぜなら、同じレベルの大学を合格したいなら芸術生は一般生より半分の点数取れるでも十分です。もちろん技術の専門テストが合格は前提です、だから芸術を勉強することはみんなでただの進学手段だと思われています、特に成績悪いの学生がそうだと思います。そして僕は高校二年生の時美術を勉強に行く事が決めました、理由はこの前恋愛の事で成績がめちゃくちゃ悪くなった、自分自身でも自ら疑いしていました、いったい自分はどんな人になれるとかたくさん考えました。このままの自分も嫌だから、高校三年生の時は学校以外の美術の塾で専門的に学んでそして四川美術学院という大学を合格した、その一年間は再び自信を生まれる過程だと思います、最初は美術に対して好き嫌いとも言えないけど、最後は運命のような物だと思います、自分でもすごく不思議だと思います、

この間美術の魅力もよく分かって、そして視野が広だって物を見る時の視点も全部変わったので、最近絵を描く時間がそんなに多くなくても私は美術の好きが減っていません、だから自分の長所が仕事になるために一所懸命頑張るつもりです。

そして未来の進路と言うと実は建築以外メディア学科も興味深いです。生活の中で、家で Youtube とがいろいろなところでたくさんのビデオを見ました。ほぼ半分以上の時間はメディア関係のものと過ごしました。たとえば携帯とコンピュータとが。一方美術の関連性で言えばメディア学科の方が関連も弱くないと思います。だから自分の長所が仕事になる私に対してメディア関係の仕事をするのも悪くないと思います。今の状況はこの二つの学科を悩んでいます。建築なら設計製図の時美術と関係深いですが、メディアにも美術と共通なところたくさんあります。

でも秋学期から設計製図の授業が履修しました。この授業が私を学科選択の問題が解決するきっかけでした。授業の中ではいろいろなスケッチを描きました。自分の長所美術が十分発揮したと思います。そして二年生の時は建築プログラミングに入りたいたら設計製図は必修科目です、設計製図中のスケッチは60%の点数が占めます。私に対してとても有利です。なぜならこの授業は僕以外専門的に美術を勉強した学生はあまりいないかもしれないですが、僕は美術上手ではない人より建築プログラミングに入りやすいと思います。だから私はこう決めました、第一志望は都市政策学科の建築プログラミングです、第二学科志望はメディア学科です。こうなら自分も迷わず前に進めるを思います。以上は私は今思う限りでやりたい事と解決しいとはいけないの事です。

まとめ

大学を有意義で過ごして無駄にしないように目標を作って充実の大学生活をして、未来の人生に大きく役に立つと思う。目標を決めてそして4年間の中で頑張って目標を達成する事は一所懸命頑張るつもり。

「図面でひもとく名建築」 大西麻貴 2016/7/1 丸善出版

「人が集まる建築 環境・デザイン・こども」 仙田 満 2016/4/13 講談社

「ゼロからはじめる『RC造建築』入門」 原口秀昭 2016/2/26 彰国社

人間の生活は環境との関係は密接があると思います。この中で大切なのは建築です。建築や環境の関係を詳しく知りたいためにこの夏休みに「人が集まる建築 環境・デザイン・こども」という本を読みました。この本で一番伝えたいのは、人間は環境を守るべきという事は人間に生まれたからには義務だということです。こいう意識の養成は難しいですが、子供は小さい頃からこの事をわかっていまいやなくて未来も環境を守りたい人がいなくなります。子供たちに人間や環境の関係を分かりやすくするために部屋の選択は大切です。誰でも小さい頃から自分の部屋の周りからこの世界や環境を知るはずで。この時からいい生活環境や正しい指導をしないなら、子供は自分と環境の関係がわからないので環境を守る気持ちがないだけでなく、木や花を破壊するようになるかもしれません。なぜかという最初から環境という概念がないからです。これを基準にして環境を守ってくださいを言ったでも誰でも返事してくれないです。ちょっと考えると当たり前だと思えます。

環境を守る事は本当に大切しないとはいけないことです。そして本の中で最も面白い論点は建築が人間や環境のバランスを表現できるという事です。つまり建築のスタイルとデザインが地元の環境や気候を表すことができるという論点です。以前は気にしなかったが、どんなところへ行っても、地方によって建築のスタイルも違うということを見たことがあります、いつも当たり前じゃないですかって思っていました。なぜ当たり前というのかは意外に一回も考えないでした。本を見ると以前の考え方が間違っていたのだと悟りました。例えば中国の西南の方で一部の地域の部屋は

地上2メートルに建てました。なぜなら中国の西南は気候は湿気が多くそして雨もよく降ります。毒性がある虫や蛇を避けるためにやったものです。環境と建築の関係も一緒に考えると分かりやすいと思います。本を読んだら感想がたくさん出て来ました、人間はどのぐらい発展してもこの地球を離れる事が出来ません。だから地球環境を守ることは全人類の義務です。人が集まるのは建築です、でも環境は以前からの物なら建築のデザインは現在、そしていい環境といい建築で育った子供は未来だと思います。

感想

この一年間で大学やりたい事についてレポートを書きながら過ごしました、今は最初書いたのレポートを見るならとても不思議でした。内容と流れが大分変わって、レポートの書き方とレポートの説得力も良くなりました、このレポートのおかげで、自分一体何をやりたいと自分の成長が感じました。一日あるいは一週間でレポートを書く事はあるけどこのようにほうぼう一年の時間を使って一つのレポートを書く事はまだ人生のはじめです。この珍しいの経験を覚えて人生にも活用したいと思います。

関西学院大学総合政策学部

2016年度秋学期日本語Ⅱ レポート集

大学生活の希望

発行日

2017年1月10日

発行

関西学院大学総合政策学部 牲川波都季

669-1337 兵庫県三田市学園 2-1

編著者

関西学院大学総合政策学部

2016年度日本語Ⅱ 受講生

問い合わせ先

牲川 波都季

segawa@kwansei.ac.jp
